

Ⅱ 令和元年(2019年)鋳工業指数の動向

1 概 況

(1) 生産動向 — 生産指数は低下 —

令和元年の生産指数（原指数）は、前年比▲4.3%の100.4となり、3年ぶりに低下した（表1、図1、統計表第1表）。

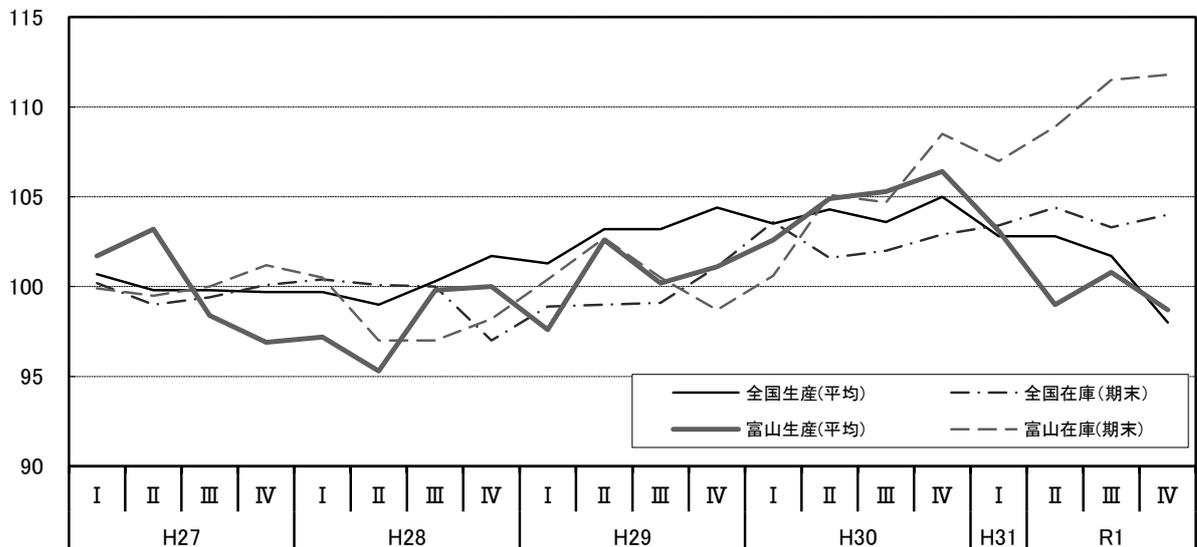
表1 鋳工業生産指数の推移

平成27年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成27年	100.0	1.3	-	100.0	▲ 1.2	-
28年	97.9	▲ 2.1	-	100.0	0.0	-
29年	100.5	2.7	-	103.1	3.1	-
30年	104.9	4.4	-	104.2	1.1	-
令和元年	100.4	▲ 4.3	-	101.1	▲ 3.0	-
令和元年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	103.1	-	▲ 3.1	102.8	-	▲ 2.1
II 期	99.0	-	▲ 4.0	102.8	-	0.0
III 期	100.8	-	1.8	101.7	-	▲ 1.1
IV 期	98.7	-	▲ 2.1	98.0	-	▲ 3.6

注: 全国指数は「経済産業省 鋳工業指数」から転載

図1 鋳工業指数(四半期季節調整済 平成27年=100)



令和元年の生産の動きを四半期別にみると、前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲3.1%、Ⅱ期▲4.0%と2期連続で低下したが、Ⅲ期 1.8%と上昇し、Ⅳ期▲2.1%と再び低下した。

また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期 0.4%と平成28年Ⅲ期以降11期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期▲6.3%、Ⅲ期▲3.9%、Ⅳ期▲7.0%と3期連続で前年を下回った。

(表1、図1、図2、図3、統計表第3表)。

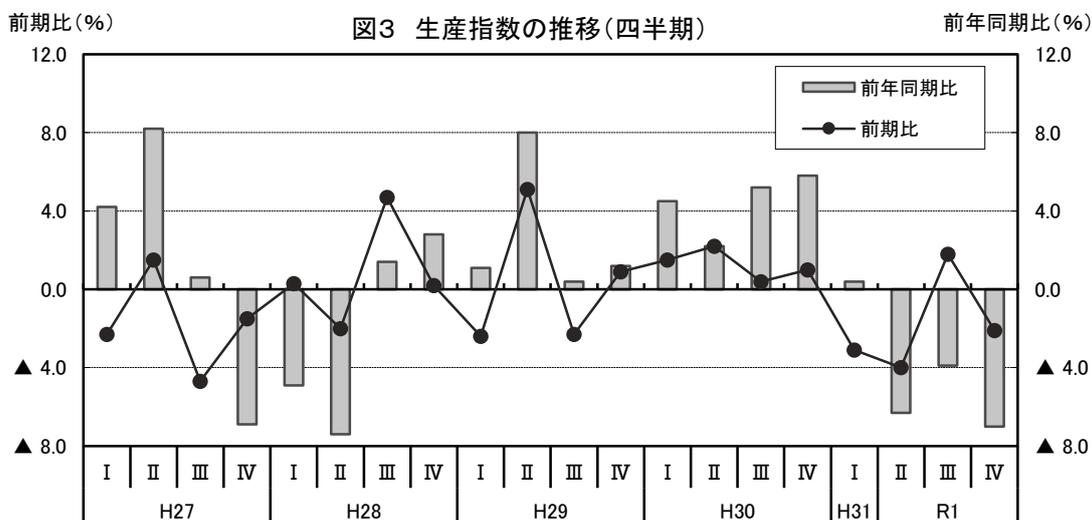
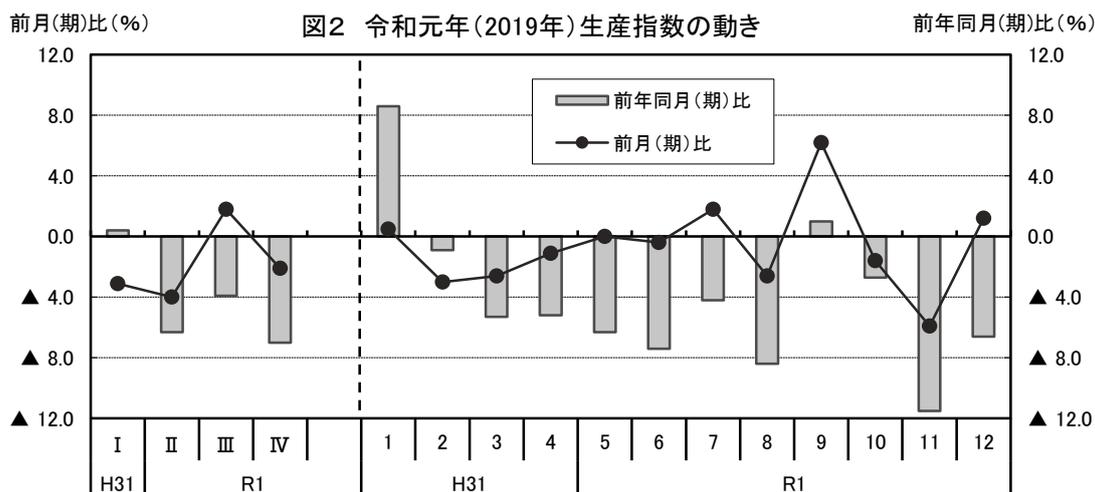


表2 生産指数(年平均)

平成27年=100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%ポイント)	全国(参考)
	ウェイト	平成30年	令和元年			ウェイト
鉱工業	10000.0	104.9	100.4	▲ 4.3	▲ 4.29	10000.0
製造工業	10000.0	104.9	100.4	▲ 4.3	▲ 4.29	9983.0
鉄鋼業	296.1	109.5	102.3	▲ 6.6	▲ 0.20	423.2
非鉄金属工業	390.4	104.3	99.2	▲ 4.9	▲ 0.19	201.6
金属製品工業	996.7	95.8	89.7	▲ 6.4	▲ 0.58	438.1
汎用・生産用・業務用機械工業	1496.5	122.0	109.2	▲ 10.5	▲ 1.83	1436.6
電気機械工業	1254.0	102.4	93.1	▲ 9.1	▲ 1.11	1420.1
輸送機械工業	410.9	113.7	111.6	▲ 1.8	▲ 0.08	1796.5
窯業・土石製品工業	252.9	87.6	79.9	▲ 8.8	▲ 0.19	322.0
化学工業	2734.0	106.6	108.8	2.1	0.57	1093.0
医薬品	2110.9	102.8	108.3	5.4	1.11	237.0
プラスチック製品工業	497.4	104.2	99.0	▲ 5.0	▲ 0.25	441.7
パルプ・紙・紙加工品工業	401.9	95.8	96.2	0.4	0.02	226.5
繊維工業	193.5	94.5	87.8	▲ 7.1	▲ 0.12	182.2
食料品工業	531.7	92.3	89.3	▲ 3.3	▲ 0.15	1313.8
その他工業	544.0	94.1	91.7	▲ 2.6	▲ 0.12	687.7

$$\text{※寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

業種別にみると、製造工業 13 業種中、汎用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、金属製品工業など 11 業種が低下し、化学工業、パルプ・紙・紙加工品工業の 2 業種が上昇した（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

生産指数（原指数）全体の低下に最も影響を与えたのは、汎用・生産用・業務用機械工業（寄与度▲1.83）で、ロボット・産業機械などの減少により、前年比▲10.5%の 109.2 となった。次いで、電気機械品工業（寄与度▲1.11）が、電子部品などの減少により前年比▲9.1%で 93.1 となった。

一方、上昇に最も影響を与えたのは化学工業（寄与度 0.57）で、前年比 2.1%の上昇で 108.8 となり、次いで、パルプ・紙・紙加工品工業（寄与度 0.02）が前年比 0.4%の上昇で 96.2 となった。

表 3 業種別生産指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	汎用・生産用・業務用機械工業	▲ 1.83	金型	ロボット・産業機械
	電気機械工業	▲ 1.11	-	電子部品
	金属製品工業	▲ 0.58	鉄構物	
	プラスチック製品工業	▲ 0.25	機械器具部品	フィルム・シート
	鉄鋼業	▲ 0.20	-	鑄鍛鋼品類
	非鉄金属工業	▲ 0.19	その他非鉄金属製品	
	窯業・土石製品工業	▲ 0.19	-	
	食料品工業	▲ 0.15		
	その他工業	▲ 0.12	木材・木製品工業	
	繊維工業	▲ 0.12	織物	化繊・紡績
上昇業種	化学工業	0.57	医薬品	医薬品原末・原液
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.02		板紙

※空欄は当該品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。

前年比(%) 図4 業種別生産指数対前年比(原指数)の推移

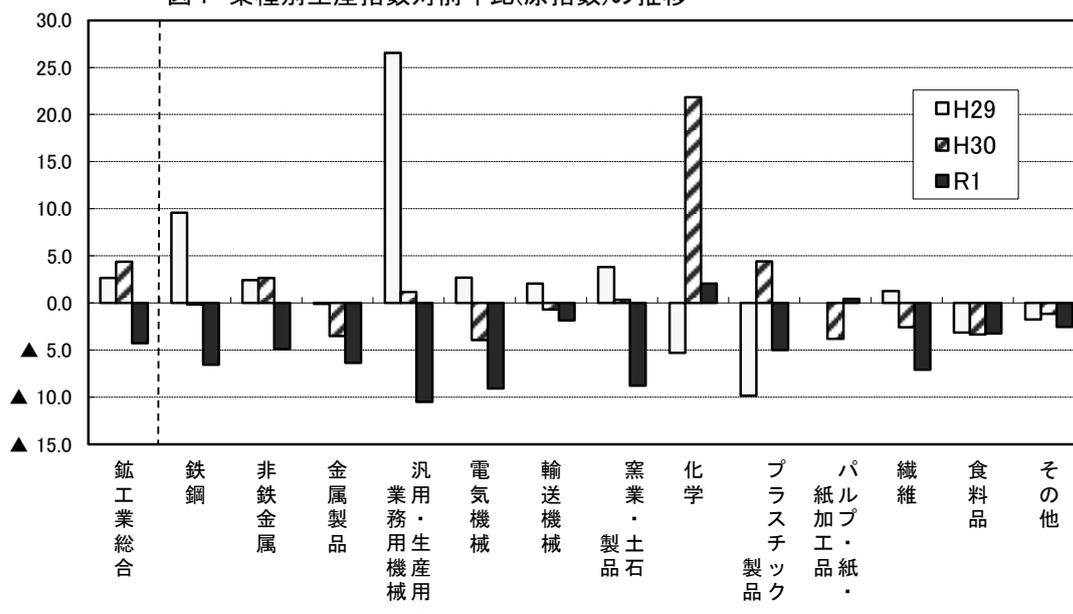


図5 業種別生産指数前年比と寄与度

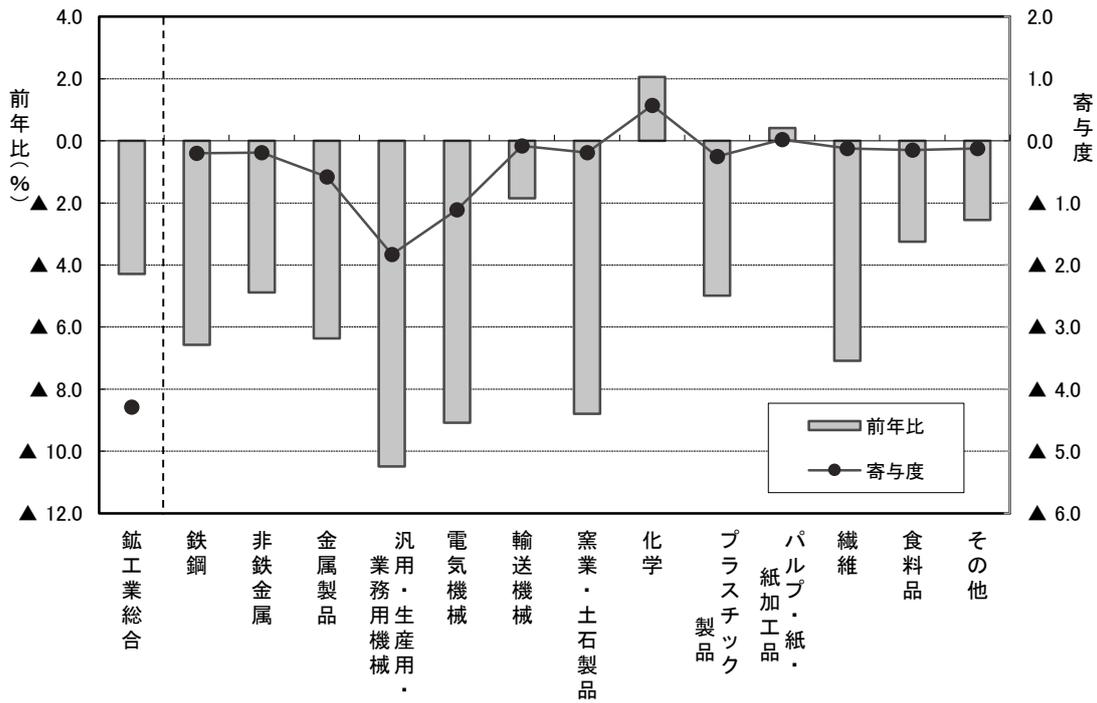
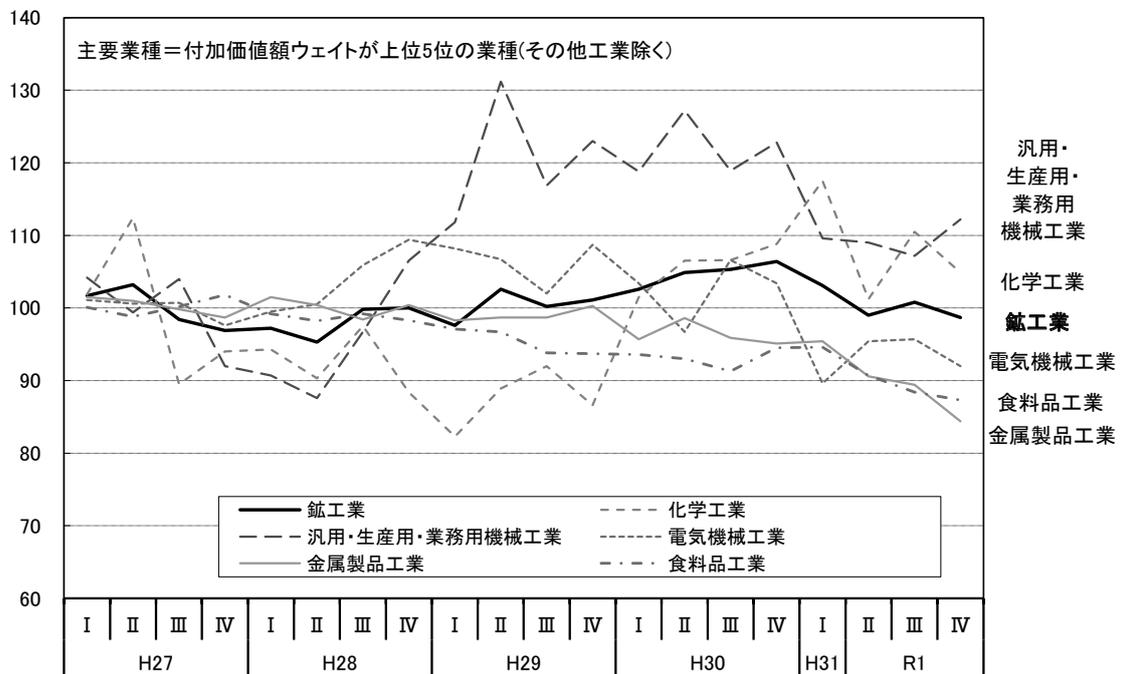


図6 生産指数(四半期季節調整済 平成27年=100)の推移



財用途別生産指数（原指数）の前年比は、最終需要財が▲1.9%低下し、生産財が▲6.4%低下したことにより、全体で▲4.3%の低下となった。

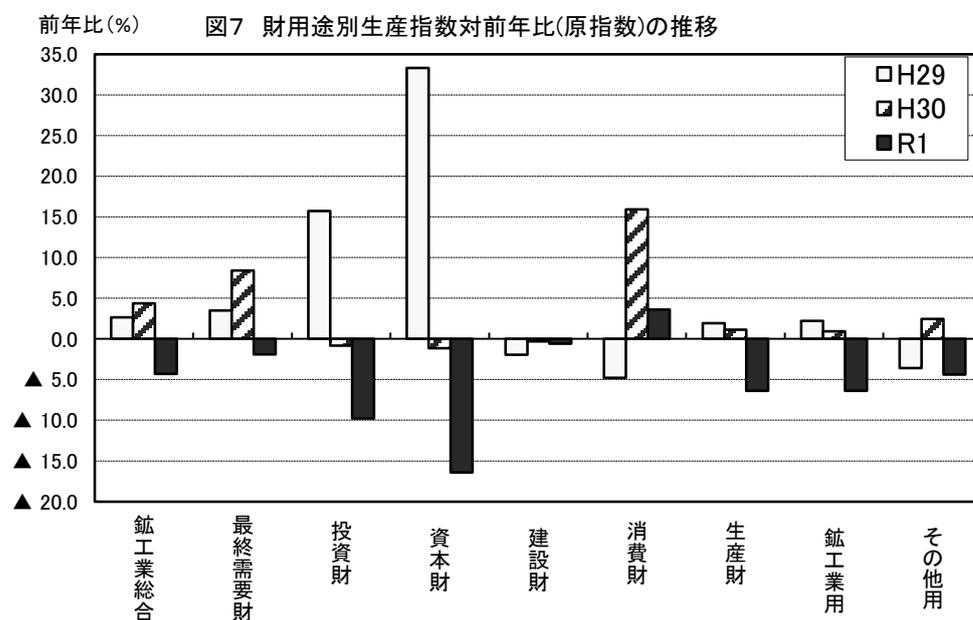
最終需要財は、消費財（寄与度 1.01）は前年比 3.6%上昇したが、投資財（寄与度 ▲1.91）が前年比▲9.8%と低下したことにより、全体では▲1.9%の低下となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度▲3.23）が前年比▲6.4%の低下となった（表4、図7、統計表第2表）。

表4 生産指数（財用途分類・年平均）

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年		
鉱工業	10000.0	104.9	100.4	▲ 4.3	▲ 4.29
最終需要財	4819.7	102.9	100.9	▲ 1.9	▲ 0.92
投資財	1885.7	108.7	98.1	▲ 9.8	▲ 1.91
資本財	972.2	121.1	101.2	▲ 16.4	▲ 1.84
建設財	913.5	95.5	94.9	▲ 0.6	▲ 0.05
消費財	2934.0	99.1	102.7	3.6	1.01
耐久消費財	127.3	X	X	X	X
非耐久消費財	2806.7	X	X	X	X
生産財	5180.3	106.8	100.0	▲ 6.4	▲ 3.36
鉱工業用生産財	4985.4	107.0	100.2	▲ 6.4	▲ 3.23
その他用生産財	194.9	99.7	95.3	▲ 4.4	▲ 0.08



(2) 在庫動向 — 在庫指数は上昇 —

令和元年の在庫指数(原指数)は、前年末比3.3%上昇の107.9となり、3年連続で上昇した(表5)。

令和元年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比(季節調整済指数)は、I期は▲1.4%と低下したが、II期1.8%、III期2.4%、IV期0.3%と3期連続で上昇した。

また、前年同期末比(原指数)では、I期5.9%、II期4.1%、III期7.1%、IV期3.3%と平成29年II期以降11期連続で前年を上回った(表5、図8、図9、統計表第4表)。

表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移 平成27年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成27年	97.9	▲ 0.7	-	98.0	▲ 2.3	-
28年	94.8	▲ 3.2	-	94.9	▲ 3.2	-
29年	95.1	0.3	-	98.8	4.1	-
30年	104.5	9.9	-	100.5	1.7	-
令和元年	107.9	3.3	-	101.7	1.2	-
令和元年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	107.0	-	▲ 1.4	103.4	-	0.5
II 期	108.9	-	1.8	104.4	-	1.0
III 期	111.5	-	2.4	103.3	-	▲ 1.1
IV 期	111.8	-	0.3	104.0	-	0.7

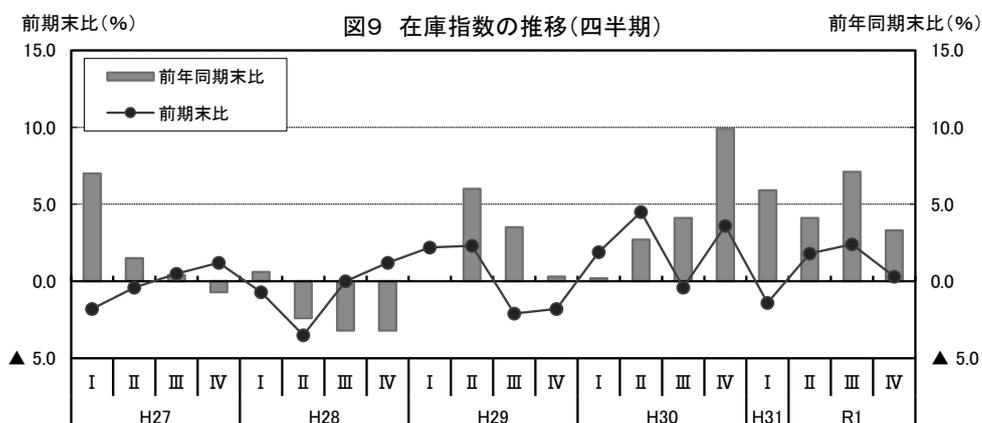
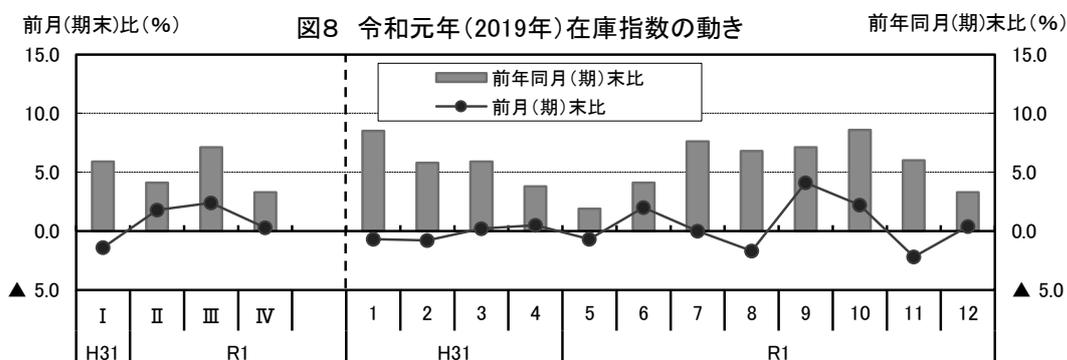


表6 在庫指数(年末)

平成27年=100

	富山県	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)	全国(参考)
	ウェイト	平成30年	令和元年			ウェイト
鉱工業	10000.0	104.5	107.9	3.3	3.25	10000.0
製造工業	10000.0	104.5	107.9	3.3	3.25	9980.9
鉄鋼業	413.9	106.1	98.0	▲ 7.6	▲ 0.32	1464.6
非鉄金属工業	375.4	100.0	103.7	3.7	0.13	271.9
金属製品工業	482.2	96.3	108.1	12.3	0.54	470.9
汎用・生産用・業務用機械工業	1966.6	102.2	131.1	28.3	5.44	1027.3
電気機械工業	578.6	X	X	X	X	1122.1
輸送機械工業	225.6	103.9	86.4	▲ 16.8	▲ 0.38	757.4
窯業・土石製品工業	379.7	73.9	69.7	▲ 5.7	▲ 0.15	361.6
化学工業	3225.2	93.1	95.3	2.4	0.68	1664.0
医薬品	1318.0	89.9	89.0	▲ 1.0	▲ 0.11	-
プラスチック製品工業	621.8	131.1	138.0	5.3	0.41	435.4
パルプ・紙・紙加工品工業	597.5	81.7	83.2	1.8	0.09	321.7
繊維工業	258.1	86.7	109.0	25.7	0.55	256.4
食料品工業	603.8	83.6	82.7	▲ 1.1	▲ 0.05	860.4
その他工業	271.6	X	X	X	X	967.2

$$\text{※寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

業種別にみると、製造工業 13 業種中、汎用・生産用・業務用機械工業、化学工業、繊維工業など 8 業種が上昇し、電気機械工業、輸送機械工業、鉄鋼業など 5 業種が低下した（表 6、表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

在庫指数（原指数）全体の上昇に最も影響を与えたのは汎用・生産用・業務用機械工業（寄与度 5.44）で前年末比 28.3%の上昇で 131.1 となった。次いで、化学工業（寄与度 0.68）はその他化学製品などの増加により、前年末比 2.4%の上昇で 95.3 となった。

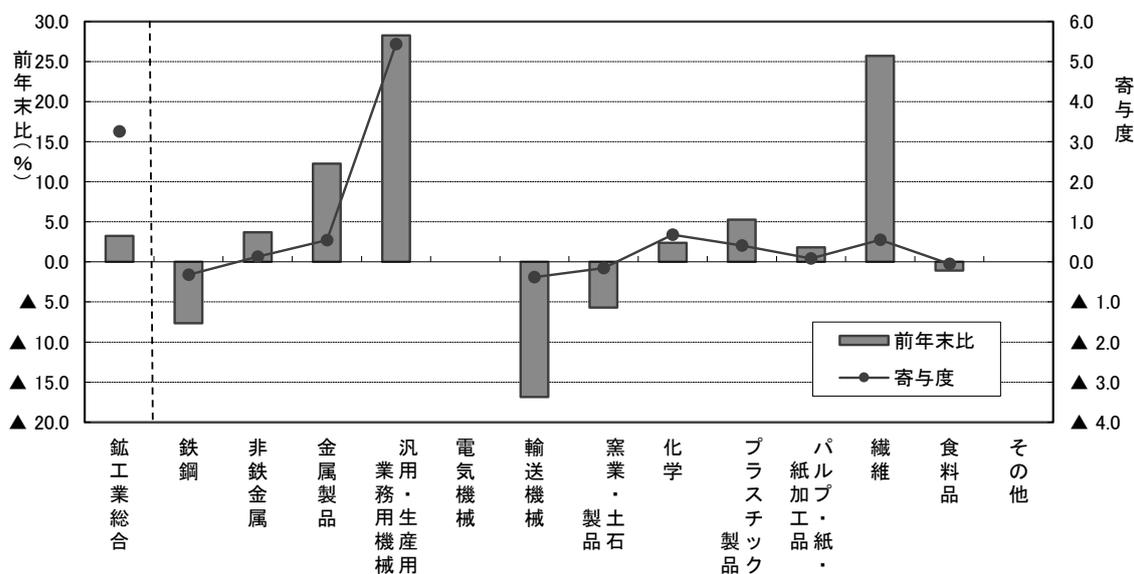
一方、低下に最も影響を与えたのは、電気機械工業であり、次いで、輸送機械工業（寄与度▲0.38）が自動車部品などの減少により前年末比▲16.8%の 86.4 となった。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	汎用・生産用・業務用機械工業	5.44		
	化学工業	0.68	その他化学製品	化学肥料
	繊維工業	0.55	衣類	-
	金属製品工業	0.54	金属製建具	
	プラスチック製品工業	0.41	その他プラスチック製品	容器
	非鉄金属工業	0.13		
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.09		
	その他工業	X		
低下業種	電気機械工業	X	-	
	輸送機械工業	▲ 0.38	-	自動車部品
	鉄鋼業	▲ 0.32	-	鑄鍛鋼品類
	窯業・土石製品工業	▲ 0.15	その他窯業・土石製品	
	食料品工業	▲ 0.05	その他の食料品	飲料

※空欄は該当品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。

図10 業種別在庫指数前年末比と寄与度



※電気機械工業、その他工業の在庫指数は秘匿値のため公表しません。

財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、最終需要財が 1.9%上昇、生産財が 3.8%上昇し、全体で 3.3%の上昇となった。

最終需要財では、消費財（寄与度▲0.19）が前年末比▲0.9%と低下したが、投資財（寄与度 0.75）が前年末比 9.4%の上昇となり、全体で 1.9%の上昇となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度 2.86）が前年末比 4.3%の上昇となり、全体で 3.8%の上昇となった（表 8）。

表8 在庫指数(財用途分類・年末) 平成27年=100

	ウェイト (万分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年		
鉱工業	10000.0	104.5	107.9	3.3	3.25
最終需要財	3283.8	93.2	95.0	1.9	0.57
投資財	773.5	108.1	118.3	9.4	0.75
資本財	187.7	96.5	95.9	▲ 0.6	▲ 0.01
建設財	585.8	111.8	125.4	12.2	0.76
消費財	2510.3	88.6	87.8	▲ 0.9	▲ 0.19
耐久消費財	125.8	X	X	X	X
非耐久消費財	2384.5	X	X	X	X
生産財	6716.2	110.0	114.2	3.8	2.70
鉱工業用生産財	6369.9	110.1	114.8	4.3	2.86
その他用生産財	346.3	108.2	103.4	▲ 4.4	▲ 0.16

(3) 在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成28年Ⅰ期、Ⅱ期は「在庫調整局面」に位置し、平成28年Ⅲ期は「在庫減少局面」へ移動した。平成28年Ⅳ期は「在庫減少局面」と「在庫積み増し局面」の境目付近に位置し、平成29年Ⅰ期、Ⅱ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。平成29年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」に移動し、平成29年Ⅳ期、平成30年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。平成30年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に位置し、平成30年Ⅲ期は「在庫積み増し局面」に移動し、平成30年Ⅳ期、平成31年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」に移動した。令和元年Ⅱ期は「在庫調整局面」に移動し、令和元年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」に移動し、令和元年Ⅳ期は再び「在庫調整局面」へ移動した。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成28年Ⅰ期は「在庫調整局面」に位置し、平成28年Ⅱ期は「在庫調整局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近へ移動し、平成28年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫積み増し局面」の境目付近に移動した。平成28年Ⅳ期は「在庫減少局面」へ移動し、平成29年Ⅰ期～Ⅲ期は「在庫積み増し局面」に位置した。平成29年Ⅳ期～平成30年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」に移動し、平成30年Ⅳ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に移動した。平成31年Ⅰ期は「在庫調整局面」へ移動し、令和元年Ⅱ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和元年Ⅲ期は「在庫調整局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に位置し、令和元年Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月（3～4年）の循環を示すことが多く、「キッチンの波」（キッチン(Kitchen)が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、以下のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き、需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（意図せざる在庫投資、図 c1,c2）。

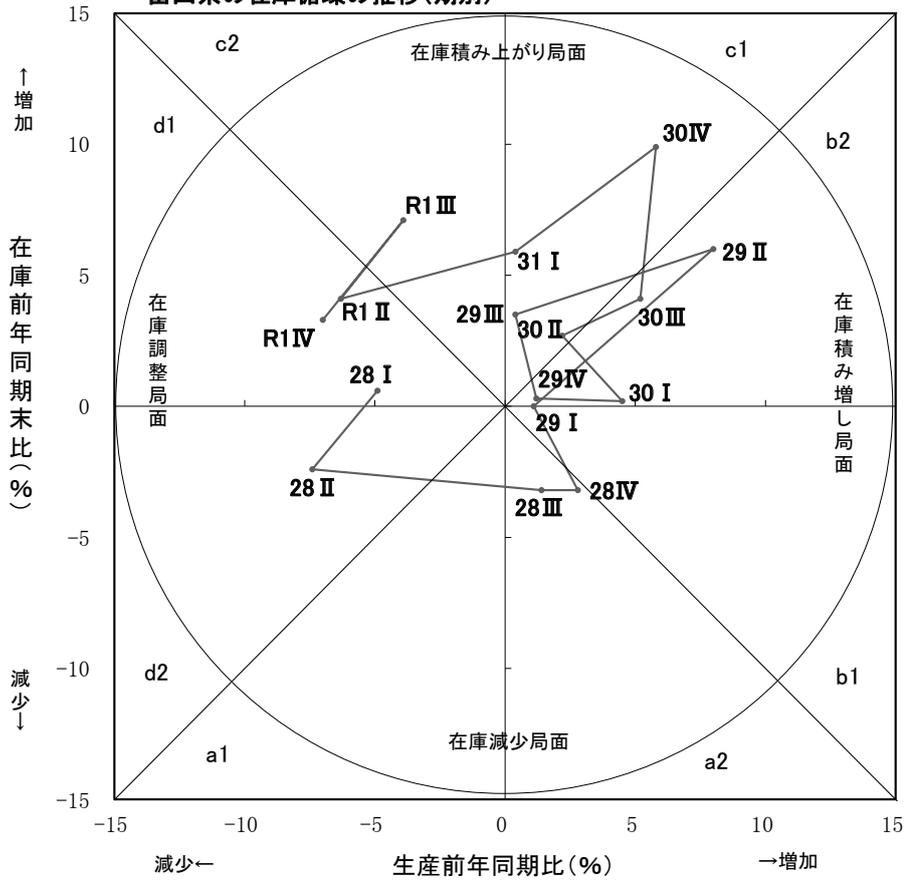
「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

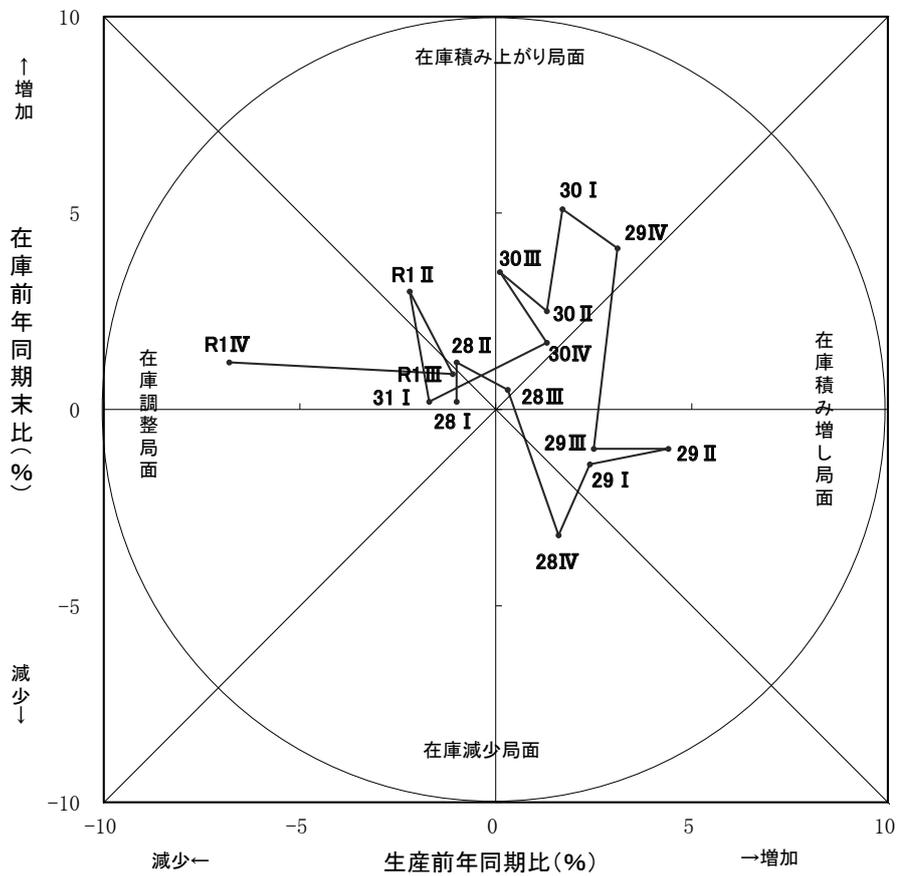
「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（意図せざる在庫減局面、図 a1,a2）。

富山県の在庫循環の推移(期別)



全国の在庫循環の推移(期別)



MEMO

2 業種別動向

(1) 鉄鋼業

①概況

生産指数は前年比▲6.6%（寄与度▲0.20）で102.3となり、2年連続で低下した。これは3品目中、3品目すべて（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類）が減少したことによる（表1、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲7.6%（寄与度▲0.32）で98.0となり、2年ぶりに低下した。これは3品目中、3品目すべて（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類）が減少したことによる（表1、統計表第9表）。

表1 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
		平成27年=100					平成27年=100			
鉄鋼業	296.1	109.5	102.3	▲6.6	▲0.20	413.9	106.1	98.0	▲7.6	▲0.32
素製品(鋼半製品含)	123.0	104.9	97.1	▲7.4	▲0.09	248.7	97.9	97.6	▲0.3	▲0.01
熱間圧延鋼材	34.0	109.2	106.8	▲2.2	▲0.01	40.5	92.6	90.9	▲1.8	▲0.01
鋳鍛鋼品類	139.1	113.7	105.8	▲6.9	▲0.10	124.7	126.6	101.1	▲20.1	▲0.30

寄与度は鉱工業に対する数値

図1 鉄鋼業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

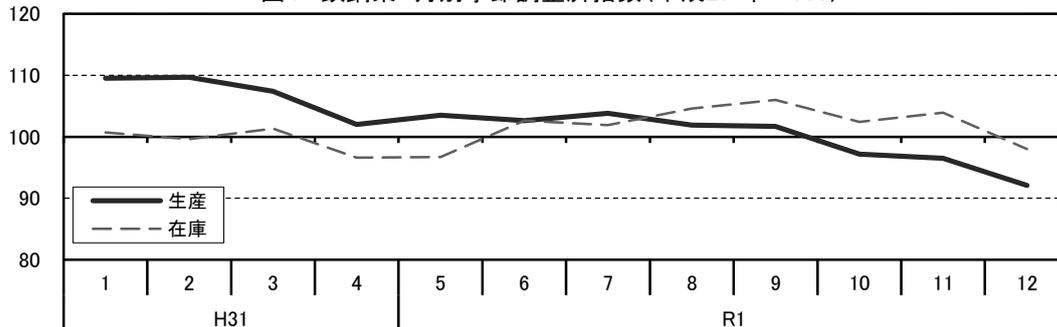
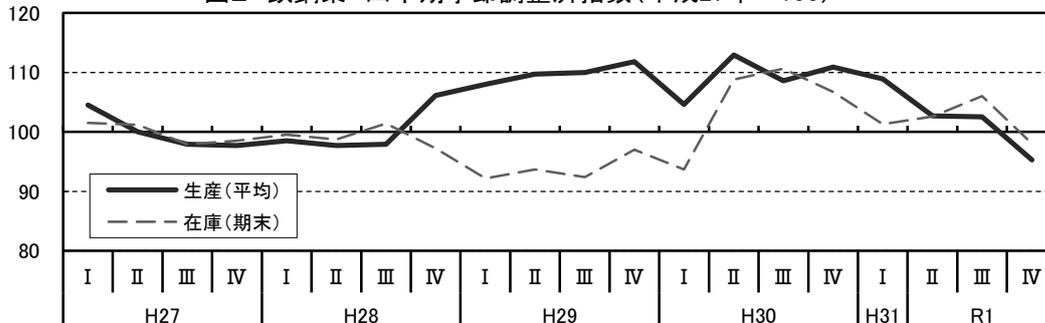


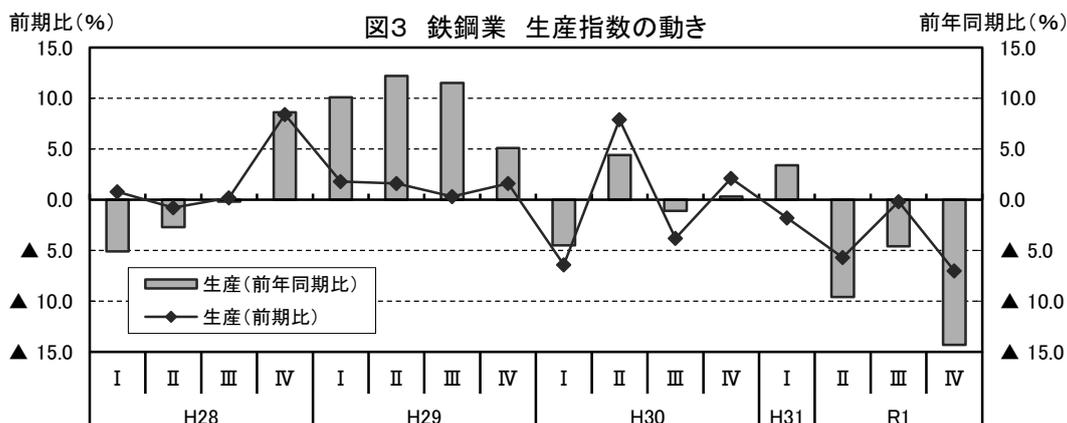
図2 鉄鋼業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲1.8%、Ⅱ期▲5.7%、Ⅲ期▲0.2%、Ⅳ期▲7.0%と4期連続で低下した。

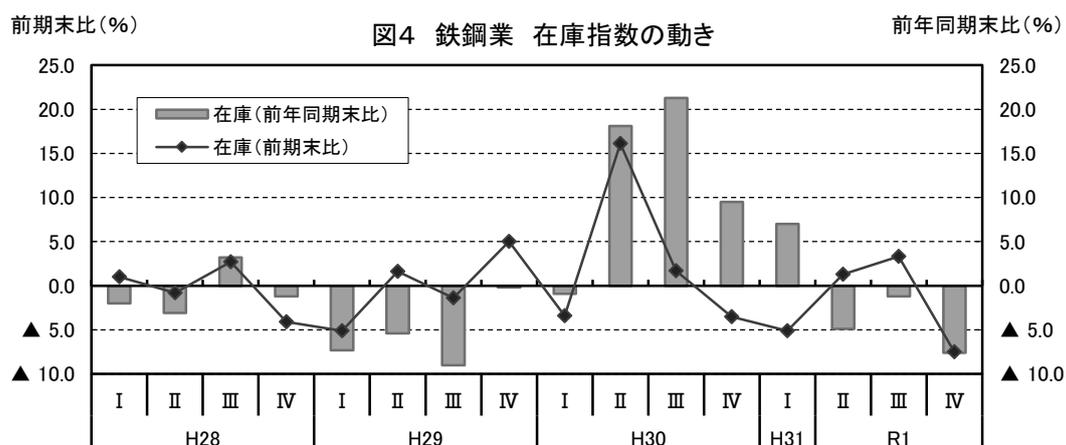
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期3.4%と前年を上回ったが、Ⅱ期▲9.6%、Ⅲ期▲4.6%、Ⅳ期▲14.3%と3期連続で前年を下回った（図3、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲5.1%と低下し、Ⅱ期1.3%、Ⅲ期3.3%と上昇したが、Ⅳ期▲7.5%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期7.0%と平成30年Ⅱ期以降4期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期▲4.9%、Ⅲ期▲1.2%、Ⅳ期▲7.6%と3期連続で前年を下回った（図4、統計表第4表）。



(2) 非鉄金属工業

①概況

生産指数は前年比▲4.9%（寄与度▲0.19）で99.2となり、3年ぶりに低下した。これは7品目中、3品目（その他非鉄金属製品など）が増加したものの、4品目（アルミニウム二次精錬、非鉄金属鋳物など）が減少したことによる（表2、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比3.7%（寄与度0.13）の上昇で103.7となり、3年ぶりに上昇した。これは6品目中、2品目が減少したものの、4品目（アルミニウム圧延製品など）が増加したことによる（表2、統計表第9表）。

表2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万百分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万百分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
		平成27年=100								
非鉄金属工業	390.4	104.3	99.2	▲4.9	▲0.19	375.4	100.0	103.7	3.7	0.13
アルミニウム二次精錬	32.4	96.8	91.8	▲5.2	▲0.02	61.5	X	X	X	X
非鉄金属地金	10.1	X	X	X	X	13.6	X	X	X	X
伸銅製品	77.0	X	X	X	X	176.9	X	X	X	X
アルミニウム圧延製品	69.0	103.6	104.1	0.5	0.00	40.5	148.6	157.0	5.7	0.03
電線ケーブル	17.1	X	X	X	X	12.2	X	X	X	X
非鉄金属鋳物	134.3	97.3	91.5	▲6.0	▲0.07	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	50.5	130.8	135.9	3.9	0.02	70.7	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図5 非鉄金属工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

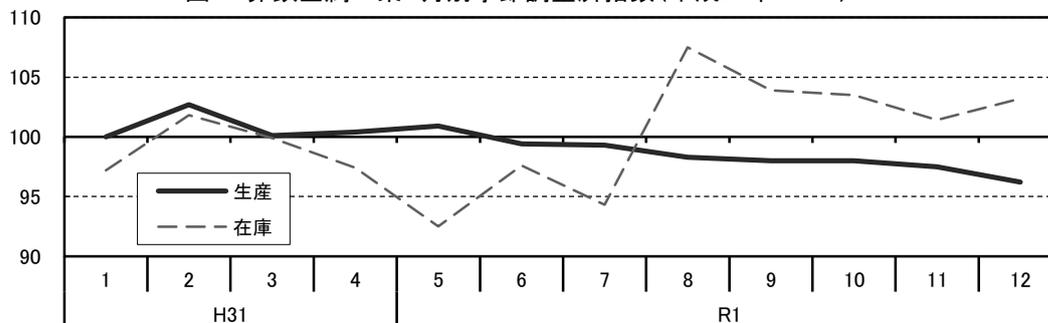
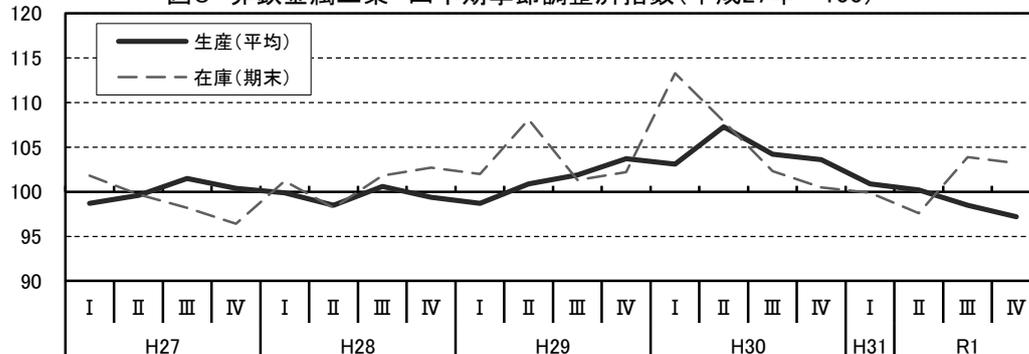


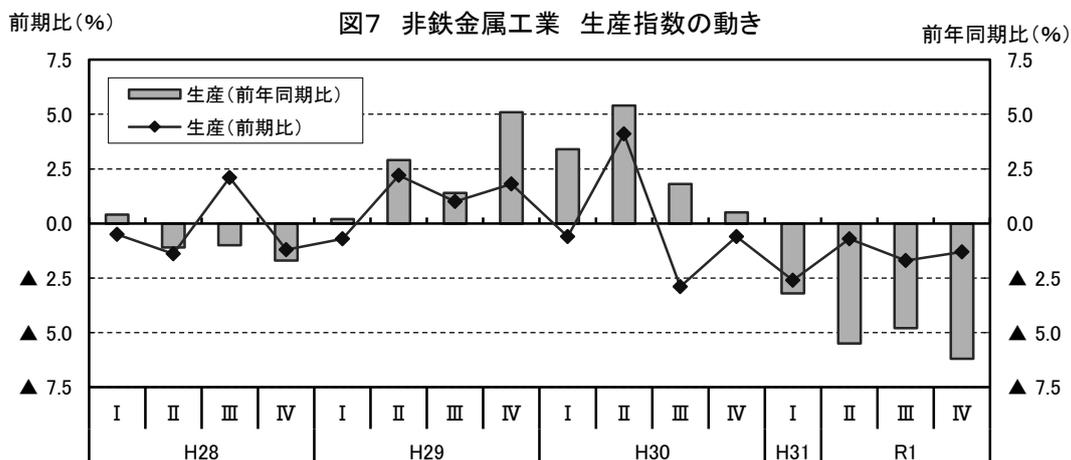
図6 非鉄金属工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲2.6%、Ⅱ期▲0.7%、Ⅲ期▲1.7%、Ⅳ期▲1.3%と平成30年Ⅲ期以降6期連続で低下した。

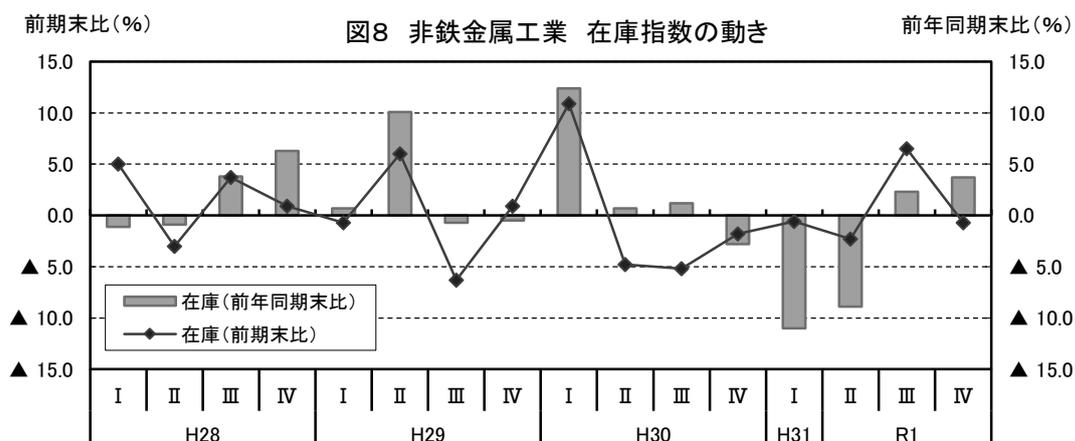
また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期▲3.2%、Ⅱ期▲5.5%、Ⅲ期▲4.8%、Ⅳ期▲6.2%と4期連続で前年を下回った(図7、統計表第3表)。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲0.6%、Ⅱ期▲2.3%と平成30年Ⅱ期以降5期連続で低下したが、Ⅲ期6.5%と上昇し、Ⅳ期▲0.7%と再び低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、Ⅰ期▲11.0%、Ⅱ期▲8.9%と平成30年Ⅳ期以降3期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期2.3%、Ⅳ期3.7%と前年を上回った(図8、統計表第4表)。



(3) 金属製品工業

①概況

生産指数は前年比▲6.4%（寄与度▲0.58）で89.7となり、5年連続で低下した。これは6品目中、1品目（鉄鋼物）が増加したものの、5品目（金属製建具など）が減少したことによる（表3、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比12.3%（寄与度0.54）の上昇で108.1となり、2年ぶりに上昇した。これは4品目中、1品目が減少したものの、3品目（金属製建具など）が増加したことによる（表3、統計表第9表）。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
金属製品工業	996.7	95.8	89.7	▲6.4	▲0.58	482.2	96.3	108.1	12.3	0.54
鉄構物	43.7	88.4	93.0	5.2	0.02	-	-	-	-	-
金属製建具	606.2	94.8	93.4	▲1.5	▲0.08	360.2	96.6	111.7	15.6	0.52
軽金属板製品	177.7	X	X	X	X	53.8	X	X	X	X
管継手	2.3	X	X	X	X	-	-	-	-	-
ばね	11.0	X	X	X	X	9.9	X	X	X	X
その他金属製品	155.8	X	X	X	X	58.3	X	X	X	X

平成27年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

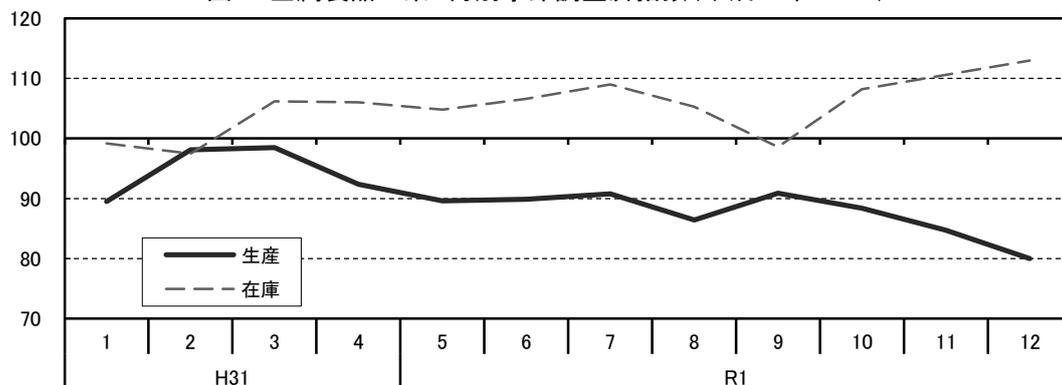
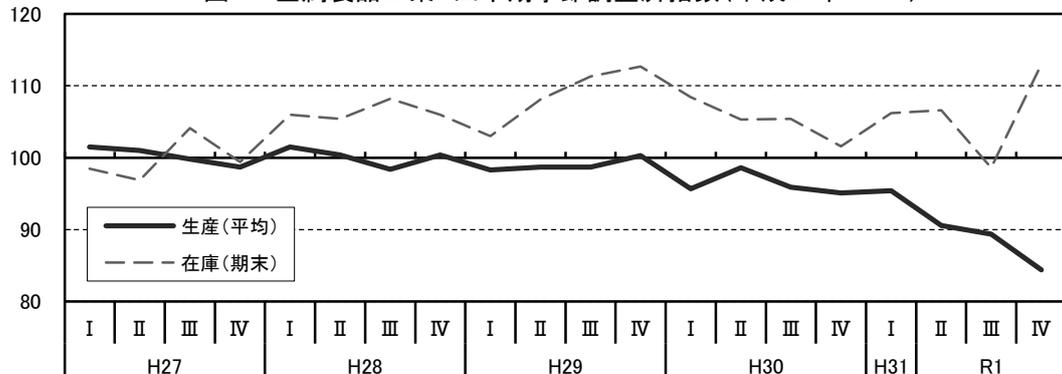


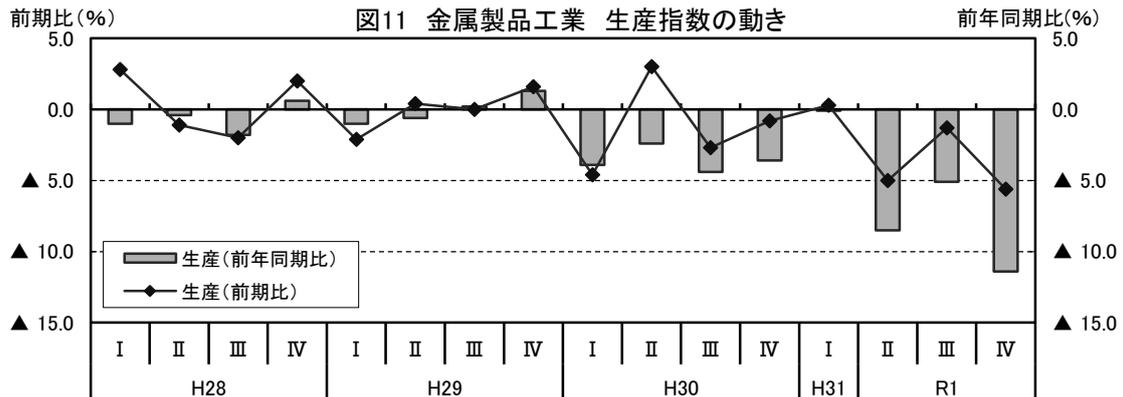
図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期 0.3%と上昇したが、Ⅱ期▲5.0%、Ⅲ期▲1.3%、Ⅳ期▲5.6%と3期連続で低下した。

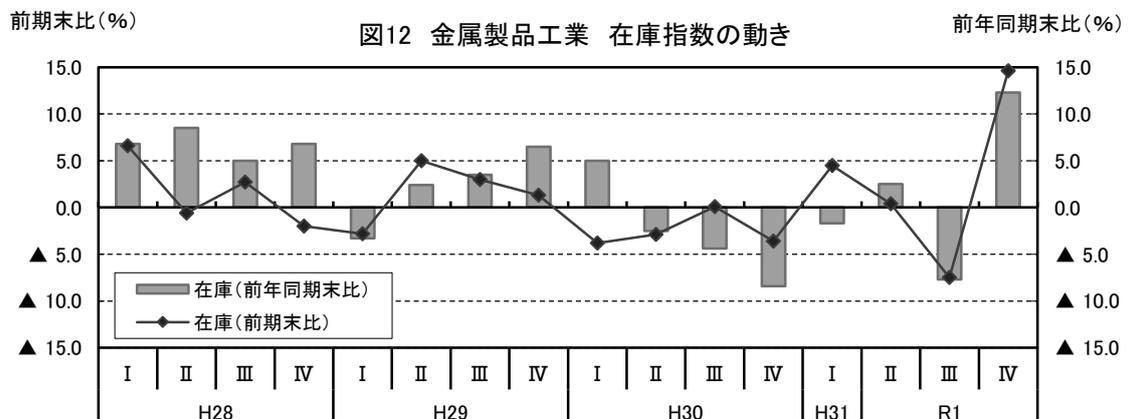
また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期▲0.1%、Ⅱ期▲8.5%、Ⅲ期▲5.1%、Ⅳ期▲11.4%と平成30年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った(図11、統計表第3表)。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、Ⅰ期 4.5%、Ⅱ期 0.4%と上昇したが、Ⅲ期▲7.5%と低下し、Ⅳ期 14.6%と再び上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、Ⅰ期▲1.7%と平成30年Ⅱ期以降4期連続で前年を下回り、Ⅱ期 2.5%と前年を上回ったが、Ⅲ期▲7.7%と前年を下回り、Ⅳ期 12.3%と再び前年を上回った(図12、統計表第4表)。



(4) 汎用・生産用・業務用機械工業

①概況

生産指数は前年比▲10.5%（寄与度▲1.83）で109.2となり、3年ぶりに低下した。これは8品目中、2品目（金型など）が増加したものの、6品目（ロボット・産業機械、金属工作機械、その他一般機械・部品など）が減少したことによる（表4、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比28.3%（寄与度5.44）の上昇で131.1となり、3年連続で上昇した。これは5品目中、2品目が減少したものの、3品目が増加したことによる（表4、統計表第9表）。

表4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
汎用・生産用・業務用機械工業	1496.5	122.0	109.2	▲10.5	▲1.83	1,966.6	102.2	131.1	28.3	5.44
油圧機器	114.5	X	X	X	X	-	-	-	-	-
軸受	274.2	X	X	X	X	466.7	X	X	X	X
ロボット・産業機械	381.9	155.5	122.4	▲21.3	▲1.21	-	-	-	-	-
金属工作機械	334.3	107.6	91.7	▲14.8	▲0.51	56.4	X	X	X	X
金型	69.6	86.2	94.4	9.5	0.05	-	-	-	-	-
機械工具	205.7	X	X	X	X	1,316.1	X	X	X	X
その他一般機械・部品	41.4	96.3	59.5	▲38.2	▲0.15	94.7	X	X	X	X
業務用機械	74.9	X	X	X	X	32.7	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図13 汎用・生産用・業務用機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

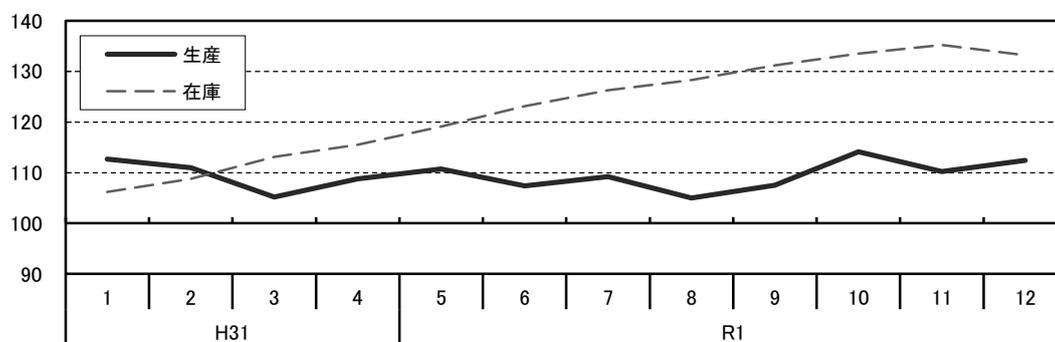
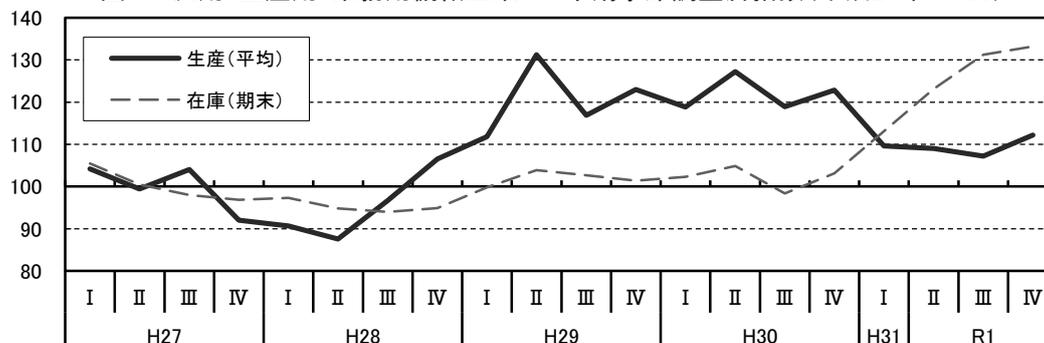


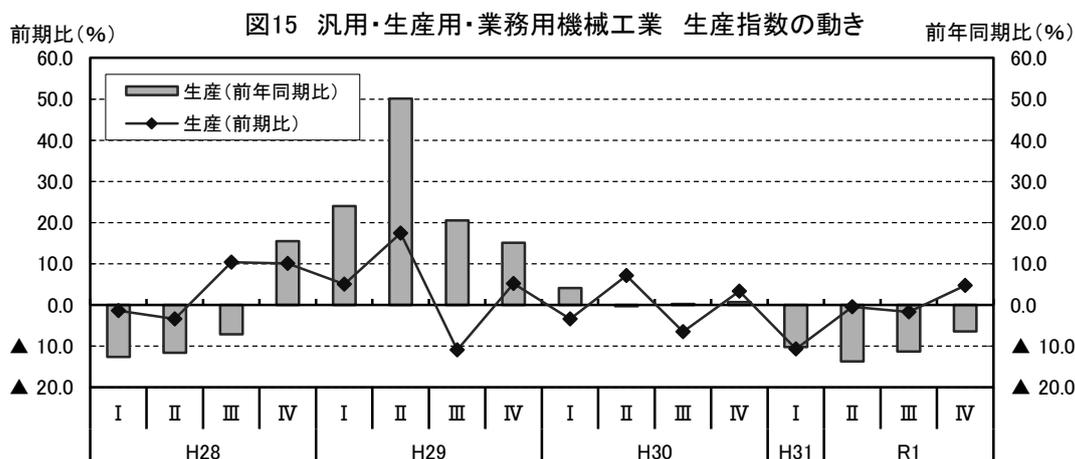
図14 汎用・生産用・業務用機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲10.7%、Ⅱ期▲0.5%、Ⅲ期▲1.7%と3期連続で低下したが、Ⅳ期4.7%と上昇した。

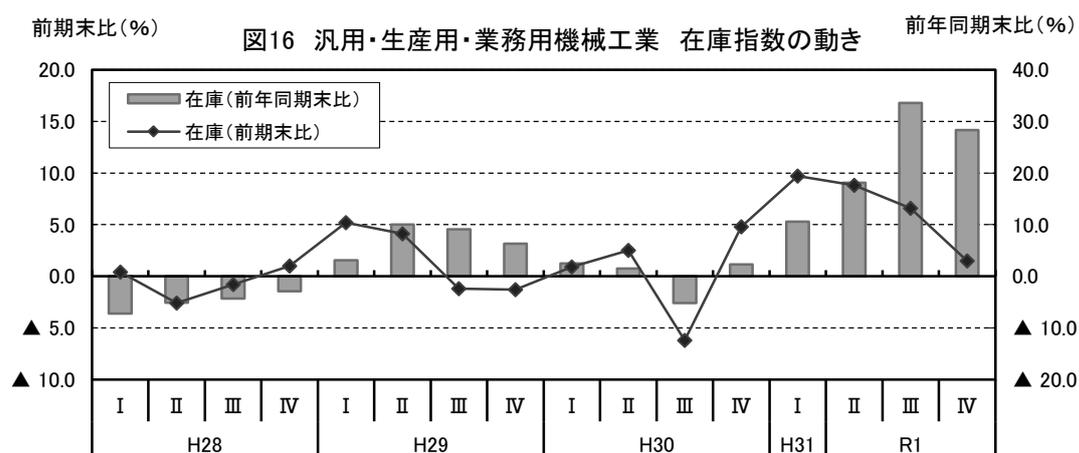
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲10.2%、Ⅱ期▲13.7%、Ⅲ期▲11.3%、Ⅳ期▲6.4%と4期連続で前年を下回った（図15、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期9.7%、Ⅱ期8.8%、Ⅲ期6.6%、Ⅳ期1.5%と平成30年Ⅳ期以降5期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期10.6%、Ⅱ期18.1%、Ⅲ期33.6%、Ⅳ期28.3%と平成30年Ⅳ期以降5期連続で前年を上回った（図16、統計表第4表）。



(5) 電気機械工業

①概況

生産指数は前年比▲9.1%（寄与度▲1.11）で93.1となり、2年連続で低下した。これは5品目中、5品目すべて（その他電気機械、電子部品など）が減少したことによる（表5、統計表第7表）。

在庫指数は3年ぶりに低下した。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
電気機械工業	1254.0	102.4	93.1	▲ 9.1	▲ 1.11	578.6	X	X	X	X
静止電気機械器具	89.7	X	X	X	X	75.8	X	X	X	X
その他電気機械	49.3	92.2	90.5	▲ 1.8	▲ 0.01	-	-	-	-	-
半導体	91.3	X	X	X	X	-	-	-	-	-
集積回路	610.0	X	X	X	X	-	-	-	-	-
電子部品	413.7	143.8	121.0	▲ 15.9	▲ 0.90	502.8	X	X	X	X

平成27年=100
寄与度は鉱工業に対する数値

図17 電気機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

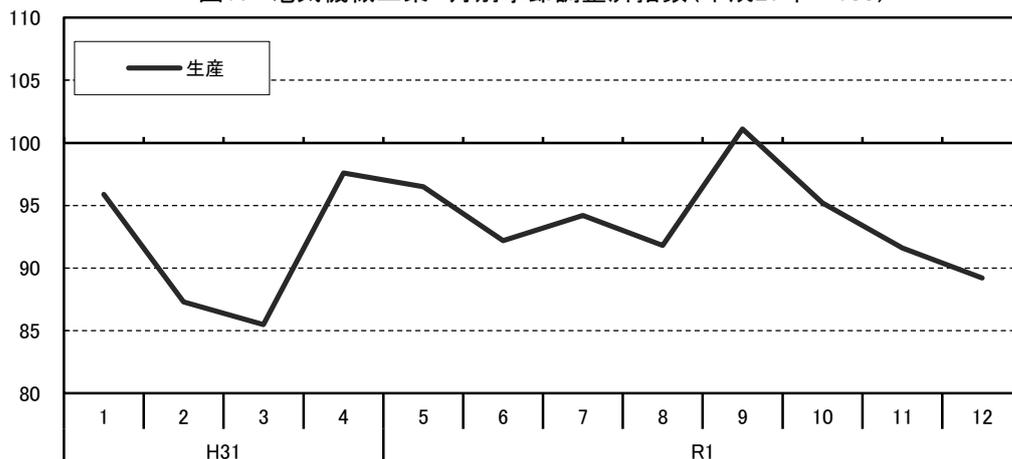
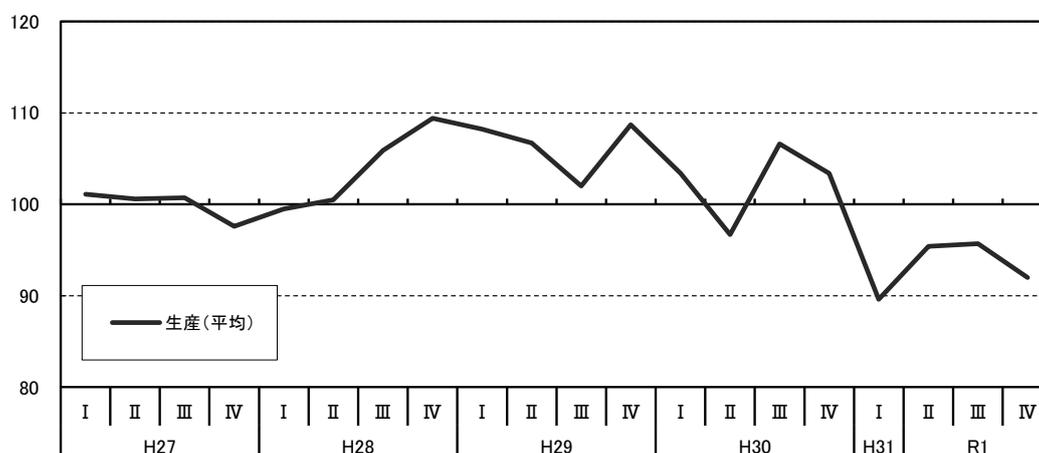


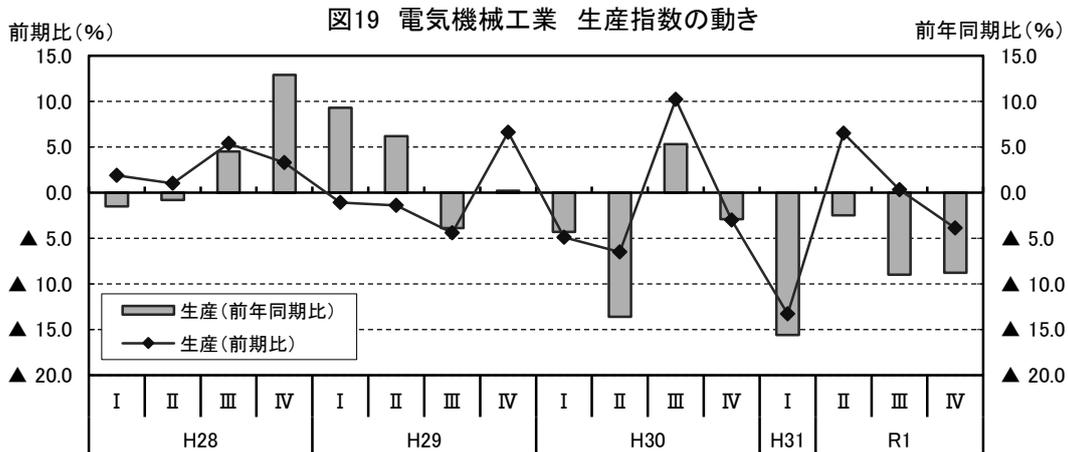
図18 電気機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生 産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲13.3%と低下したが、Ⅱ期 6.5%、Ⅲ期 0.3%と上昇し、Ⅳ期▲3.9%と再び低下した。

また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期▲15.6%、Ⅱ期▲2.5%、Ⅲ期▲9.0%、Ⅳ期▲8.8%と平成 30 年Ⅳ期以降 5 期連続で前年を下回った(図 19、統計表第 3 表)。



③在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と 3 期連続で低下し、Ⅳ期は上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、Ⅰ期は平成 29 年Ⅰ期以降 9 期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期は 3 期連続で前年を下回った。

※指数値は秘匿のため公表しません。

(6) 輸送機械工業

①概況

生産指数は前年比▲1.8%（寄与度▲0.08）で 111.6 となり、2年連続で低下した。これは2品目中、1品目が増加したものの、1品目が減少したことによる（表6、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲16.8%（寄与度▲0.38）で 86.4 となり、2年ぶりに低下した。これは1品目（自動車部品）が低下したことによる（表6、統計表第9表）。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
輸送機械工業	410.9	113.7	111.6	▲1.8	▲0.08	225.6	103.9	86.4	▲16.8	▲0.38
自動車ボデー	99.4	X	X	X	X	-	-	-	-	-
自動車部品	311.5	X	X	X	X	225.6	103.9	86.4	▲16.8	▲0.38

寄与度は鉱工業に対する数値

図21 輸送機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

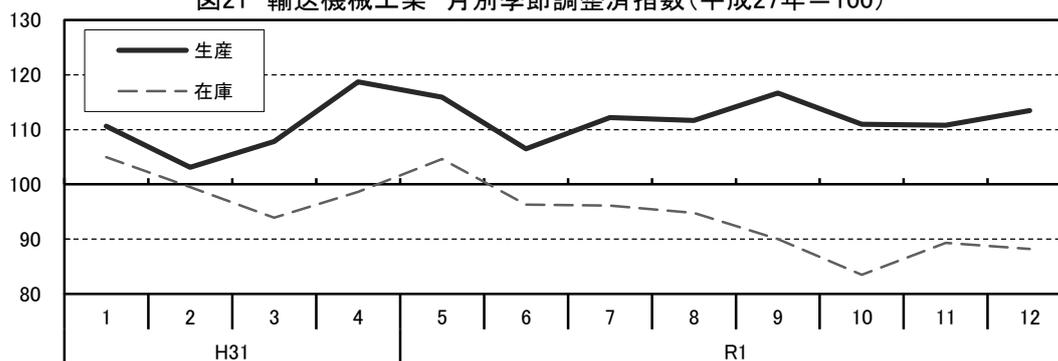
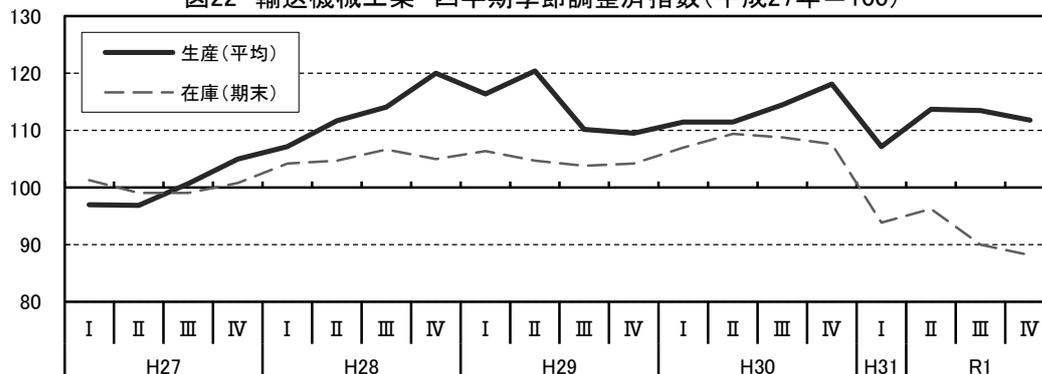


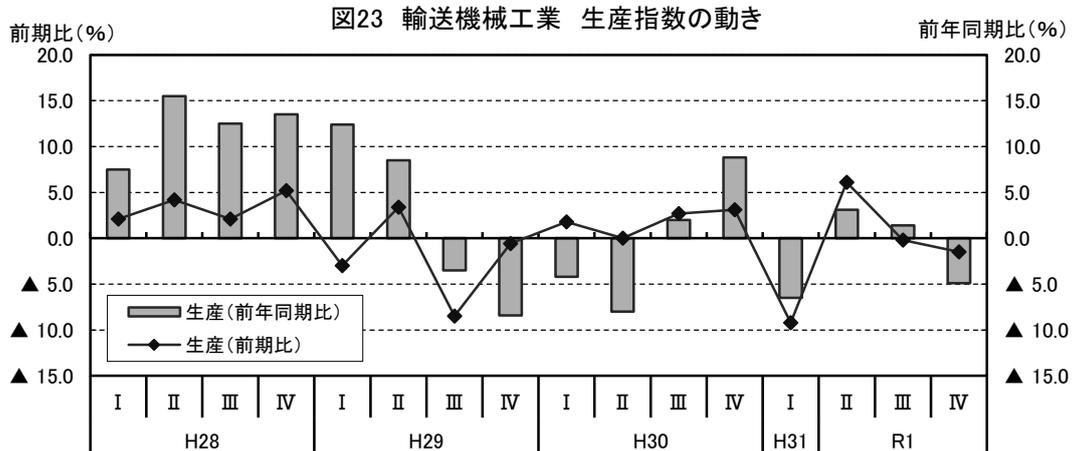
図22 輸送機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲9.2%と低下し、Ⅱ期6.1%と上昇したが、Ⅲ期▲0.2%、Ⅳ期▲1.5%と再び低下した。

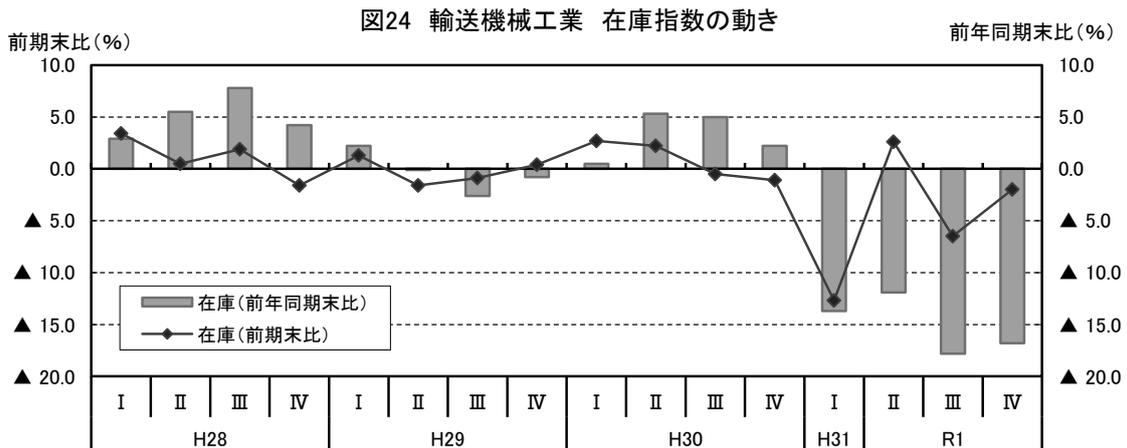
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲6.5%と前年を下回ったが、Ⅱ期3.1%、Ⅲ期1.4%と2期連続で前年を上回り、Ⅳ期▲4.9%と再び前年を下回った（図23、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲12.7%と平成30年Ⅲ期以降3期連続で低下したが、Ⅱ期2.6%と上昇し、Ⅲ期▲6.5%、Ⅳ期▲2.0%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲13.7%、Ⅱ期▲11.9%、Ⅲ期▲17.8%、Ⅳ期▲16.8%と4期連続で前年を下回った（図24、統計表第4表）。



(7) 窯業・土石製品工業

①概況

生産指数は前年比▲8.8%（寄与度▲0.19）で79.9となり、3年ぶりに低下した。これは6品目中、6品目すべて（ガラス製品、生コンクリート、セメント製品、その他窯業・土石製品など）が減少したことによる（表7、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲5.7%（寄与度▲0.15）で69.7となり、2年連続で低下した。これは5品目中、3品目（セメント製品、その他窯業・土石製品など）が増加したものの、2品目（ガラス製品など）が減少したことによる（表7、統計表第9表）。

表7 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
窯業・土石製品工業	252.9	87.6	79.9	▲8.8	▲0.19	379.7	73.9	69.7	▲5.7	▲0.15
ガラス製品	61.7	86.0	85.7	▲0.3	▲0.00	27.3	94.1	85.6	▲9.0	▲0.02
生コンクリート	79.4	84.3	83.1	▲1.4	▲0.01	-	-	-	-	-
セメント製品	23.7	89.4	87.4	▲2.2	▲0.00	156.3	62.5	63.2	1.1	0.01
炭素製品	52.7	X	X	X	X	113.8	X	X	X	X
ファインセラミックス	2.2	X	X	X	X	9.2	X	X	X	X
その他窯業・土石製品	33.2	92.4	91.0	▲1.5	▲0.00	73.1	82.5	103.3	25.2	0.15

寄与度は鉱工業に対する数値

図25 窯業・土石製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

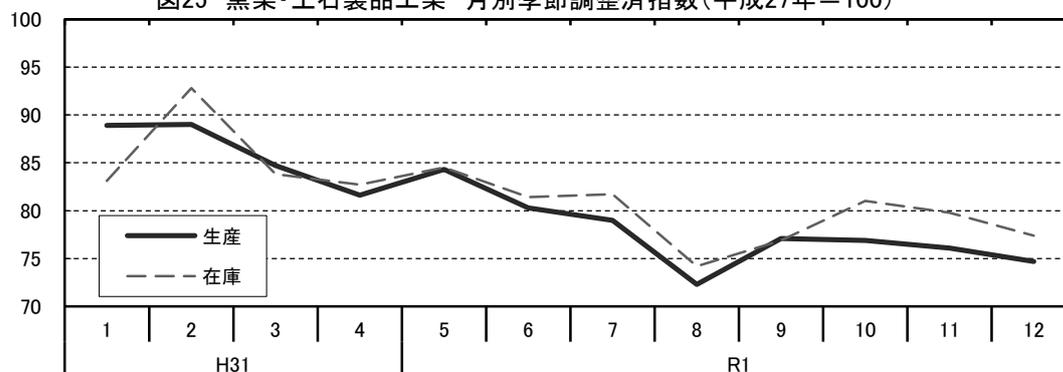
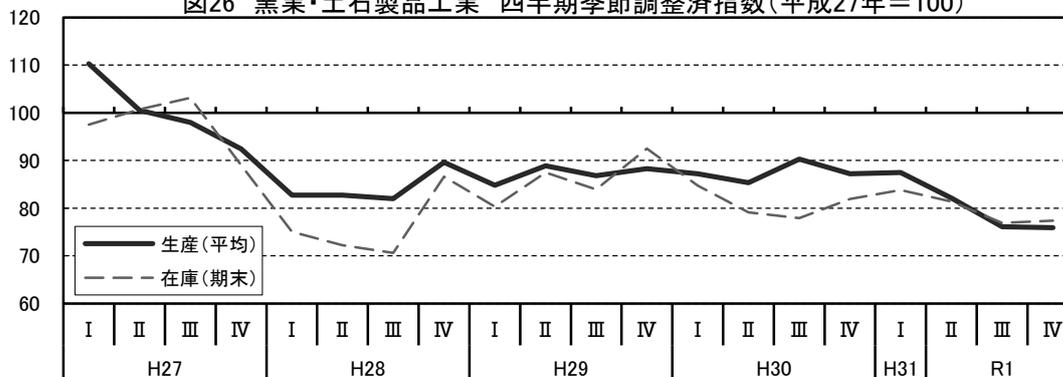


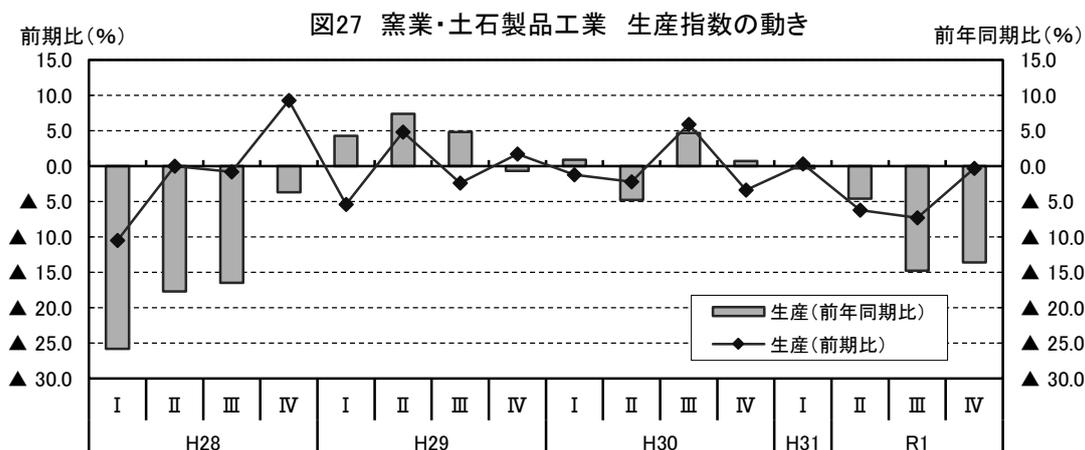
図26 窯業・土石製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期0.3%と上昇したが、II期▲6.2%、III期▲7.3%、IV期▲0.3%と3期連続で低下した。

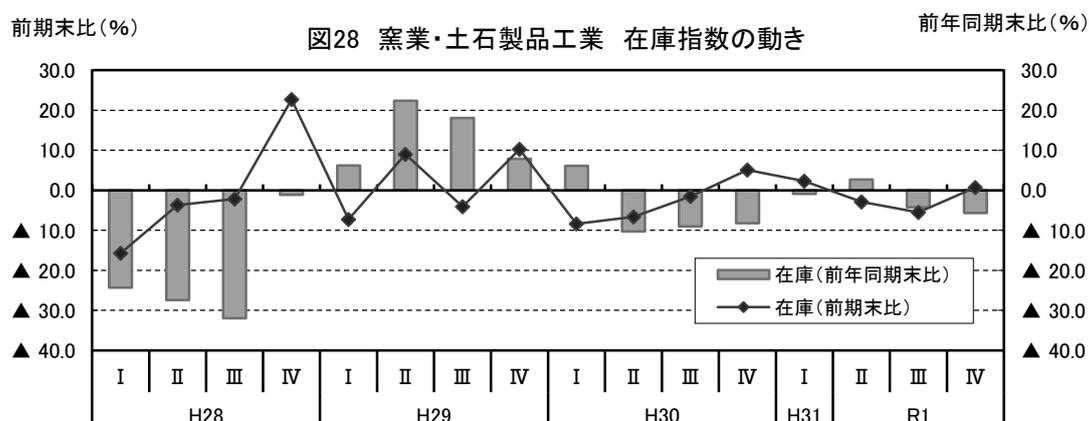
また、前年同期比(原指数)は、I期▲0.3%、II期▲4.6%、III期▲14.8%、IV期▲13.6%と4期連続で前年を下回った(図27、統計表第3表)。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期2.3%と平成30年IV期に続き上昇したが、II期▲2.9%、III期▲5.5%と低下し、IV期0.7%と再び上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、I期▲0.9%と平成30年II期以降4期連続で前年を下回ったが、II期2.7%と前年を上回り、III期▲4.2%、IV期▲5.7%と再び前年を下回った(図28、統計表第4表)。



(8) 化学工業

①概況

生産指数は前年比 2.1% (寄与度 0.57) の上昇で 108.8 となり、2年連続で上昇した。これは 8 品目中、7 品目 (化学肥料、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、医薬品原末・原液など) が減少したものの、1 品目 (医薬品) が増加したことによる (表 8、統計表第 7 表)。

在庫指数は前年末比 2.4% (寄与度 0.68) の上昇で 95.3 となり、2年連続で上昇した。これは 8 品目中、3 品目 (化学肥料、医薬品など) が減少したものの、5 品目 (無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、医薬品原末・原液など) が増加したことによる (表 8、統計表第 9 表)。

表8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
		平成27年=100								
化学工業	2734.0	106.6	108.8	2.1	0.57	3225.2	93.1	95.3	2.4	0.68
化学肥料	179.3	102.8	99.6	▲ 3.1	▲ 0.05	349.7	105.3	99.1	▲ 5.9	▲ 0.21
ソーダ工業品	4.3	X	X	X	X	2.6	X	X	X	X
無機化学製品	31.0	130.4	121.8	▲ 6.6	▲ 0.03	84.6	87.8	107.4	22.3	0.16
プラスチック樹脂	33.4	97.6	97.4	▲ 0.2	▲ 0.00	127.1	76.9	86.9	13.0	0.12
その他化学製品	125.9	107.7	99.6	▲ 7.5	▲ 0.10	752.5	110.1	117.1	6.4	0.50
接着剤	16.4	X	X	X	X	107.5	X	X	X	X
医薬品原末・原液	232.8	142.9	127.0	▲ 11.1	▲ 0.35	483.2	76.4	78.5	2.7	0.10
医薬品	2110.9	102.8	108.3	5.4	1.11	1318.0	89.9	89.0	▲ 1.0	▲ 0.11

寄与度は鉱工業に対する数値

図29 化学工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

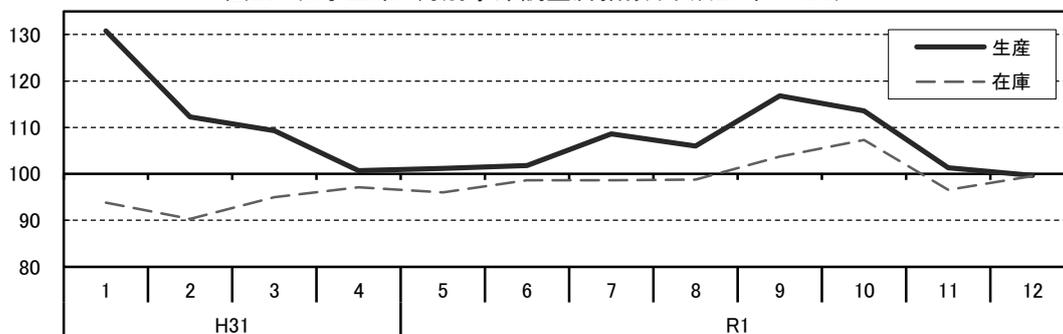
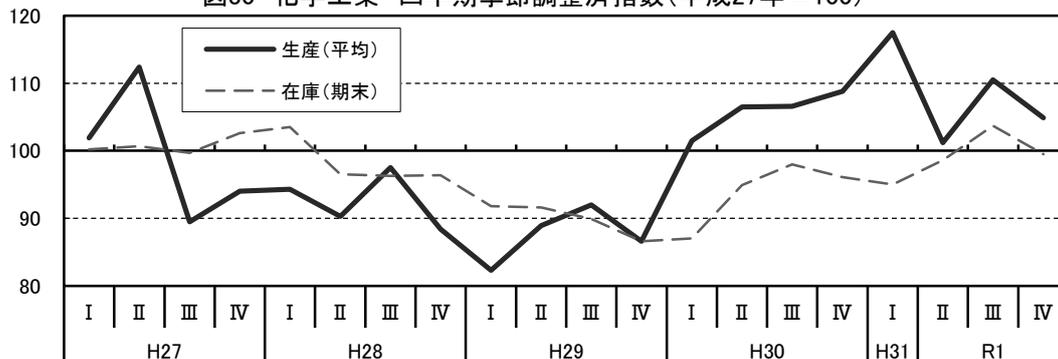


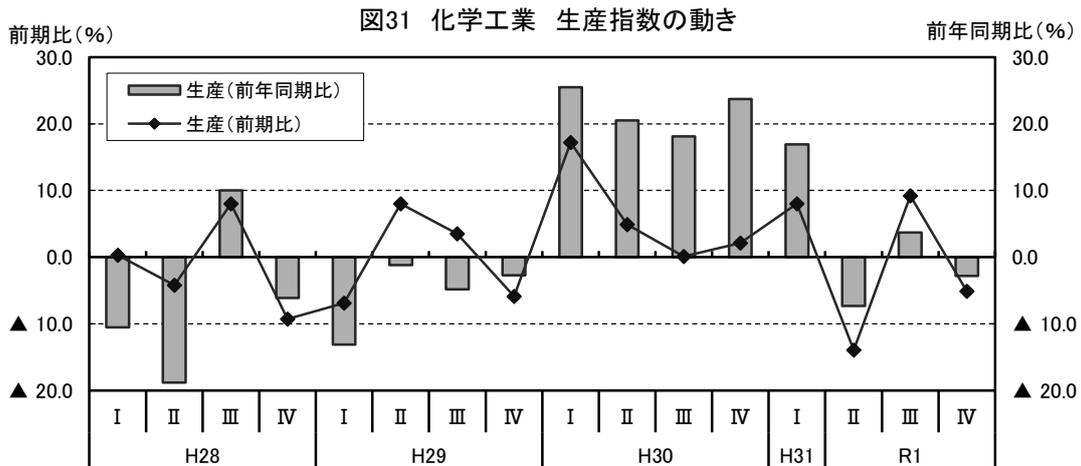
図30 化学工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 8.0%と平成 30 年Ⅰ期以降 5 期連続で上昇し、Ⅱ期▲13.9%と低下したが、Ⅲ期 9.2%と上昇し、Ⅳ期▲5.1%と再び低下した。

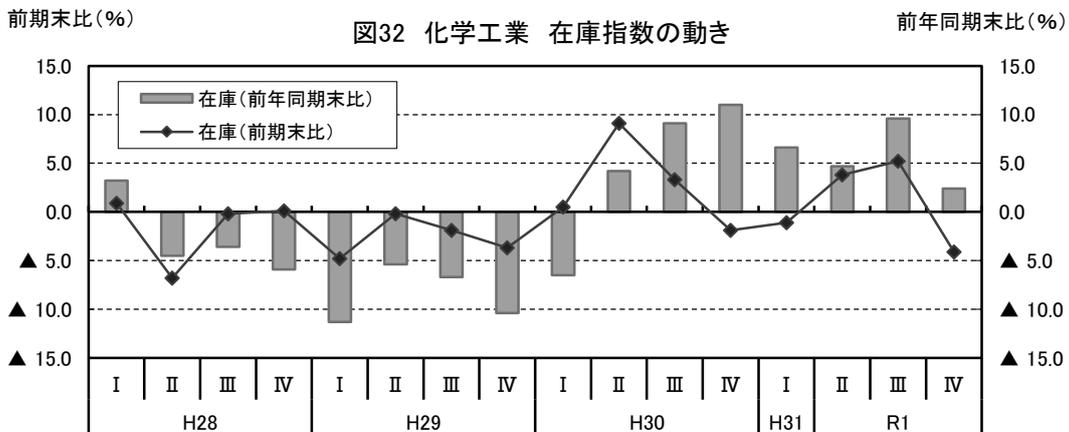
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 16.9%と平成 30 年Ⅰ期以降 5 期連続で前年を上回り、Ⅱ期▲7.3%と前年を下回ったが、Ⅲ期 3.7%と前年を上回り、Ⅳ期▲2.8%と再び前年を下回った（図 31、統計表第 3 表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲1.1%と平成 30 年Ⅳ期に続き低下したが、Ⅱ期 3.8%、Ⅲ期 5.2%と上昇し、Ⅳ期▲4.1%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 6.6%、Ⅱ期 4.7%、Ⅲ期 9.6%、Ⅳ期 2.4%と平成 30 年Ⅱ期以降 7 期連続で前年を上回った（図 32、統計表第 4 表）。



(9) プラスチック製品工業

①概況

生産指数は前年比▲5.0%（寄与度▲0.25）で99.0となり、2年ぶりに低下した。これは6品目中、3品目（機械器具部品、建材・強化製品、その他プラスチック製品）が増加したものの、3品目（フィルム・シート、容器、日用品雑貨）が減少したことによる（表9、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比5.3%（寄与度0.41）の上昇で138.0となり、3年連続で上昇した。これは6品目中、2品目（容器、日用品雑貨）が減少したものの、4品目（フィルム・シート、その他プラスチック製品など）が増加したことによる（表9、統計表第9表）。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
		平成27年=100								
プラスチック製品工業	497.4	104.2	99.0	▲5.0	▲0.25	621.8	131.1	138.0	5.3	0.41
フィルム・シート	211.6	99.3	83.5	▲15.9	▲0.32	130.4	80.2	95.9	19.6	0.20
機械器具部品	83.8	97.4	102.2	4.9	0.04	5.1	X	X	X	X
容器	43.4	107.1	104.6	▲2.3	▲0.01	37.8	144.1	135.1	▲6.2	▲0.03
日用品雑貨	59.2	105.6	105.3	▲0.3	▲0.00	174.2	106.1	105.6	▲0.5	▲0.01
建材・強化製品	29.1	113.0	119.5	5.8	0.02	4.6	X	X	X	X
その他プラスチック製品	70.3	120.6	124.8	3.5	0.03	269.7	171.2	179.6	4.9	0.22

寄与度は鉱工業に対する数値

図33 プラスチック製品工業 月別季節調整指数(平成27年=100)

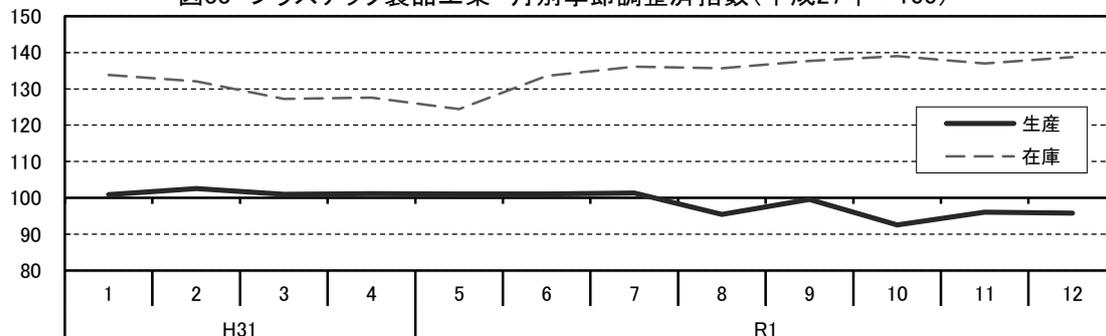
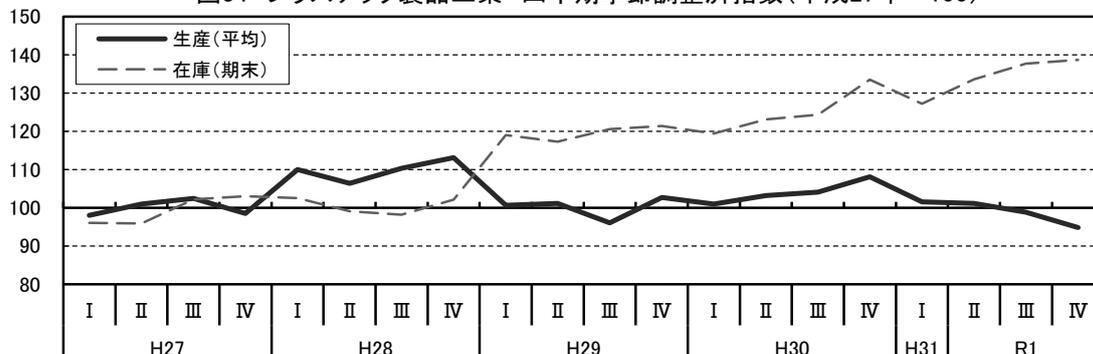


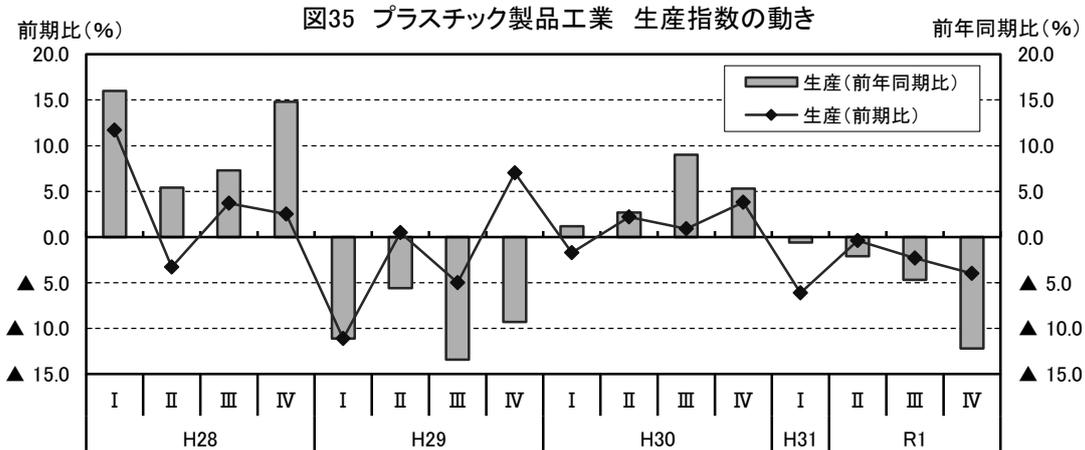
図34 プラスチック製品工業 四半期季節調整指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲6.1%、Ⅱ期▲0.4%、Ⅲ期▲2.3%、Ⅳ期▲4.0%と4期連続で低下した。

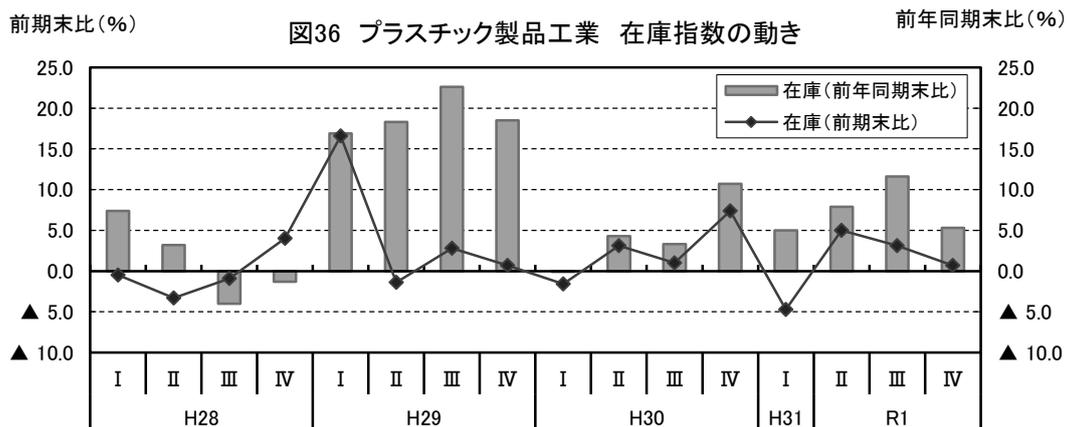
また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期▲0.6%、Ⅱ期▲2.1%、Ⅲ期▲4.7%、Ⅳ期▲12.2%と4期連続で前年を下回った(図35、統計表第3表)。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲4.7%と低下したが、Ⅱ期 5.0%、Ⅲ期 3.1%、Ⅳ期 0.7%と3期連続で上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、Ⅰ期 5.0%、Ⅱ期 7.9%、Ⅲ期 11.6%、Ⅳ期 5.3%と平成30年Ⅱ期以降7期連続で前年を上回った。(図36、統計表第4表)。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

①概況

生産指数は前年比 0.4%（寄与度 0.02）の上昇で 96.2 となり、5 年ぶりに上昇した。これは 6 品目中、3 品目（板紙、段ボール・箱・袋など）が減少したものの、3 品目が増加したことによる（表 10、統計表第 7 表）。

在庫指数は前年末比 1.8%（寄与度 0.09）の上昇で 83.2 となり 5 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、2 品目（板紙など）が減少したものの、3 品目（段ボール・箱・袋など）が増加したことによる（表 10、統計表第 9 表）。

表10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
パルプ・紙・紙加工品工業	401.9	95.8	96.2	0.4	0.02	597.5	81.7	83.2	1.8	0.09
パルプ	88.7	X	X	X	X	-	-	-	-	-
紙	131.7	X	X	X	X	221.3	X	X	X	X
紙器	6.8	X	X	X	X	45.0	X	X	X	X
板紙	53.3	87.5	76.9	▲ 12.1	▲ 0.05	114.0	70.4	62.6	▲ 11.1	▲ 0.09
段ボール・箱・袋	77.4	102.6	101.7	▲ 0.9	▲ 0.01	15.5	95.3	102.6	7.7	0.01
その他紙製品	44.0	X	X	X	X	201.7	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図37 パルプ・紙・紙加工品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

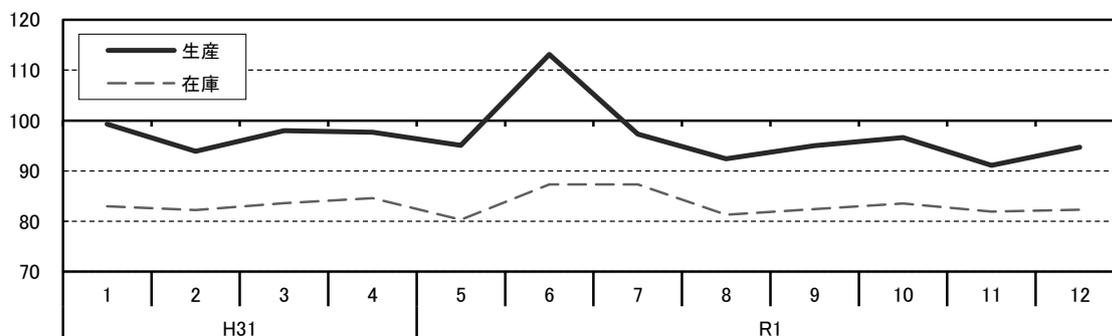
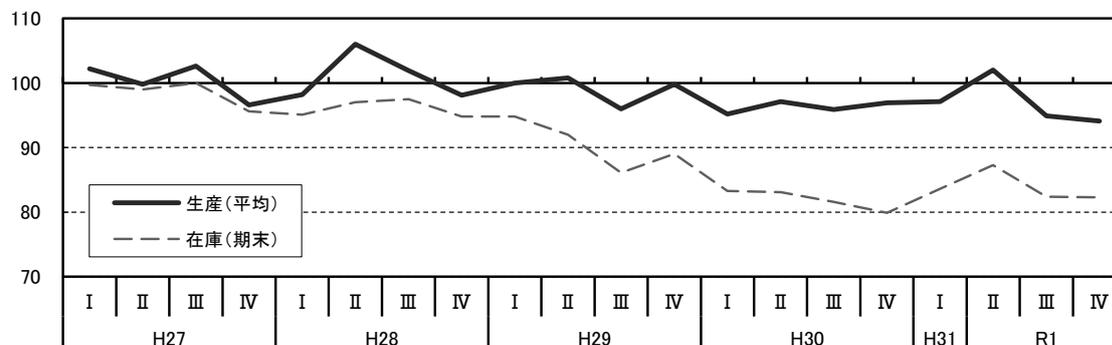


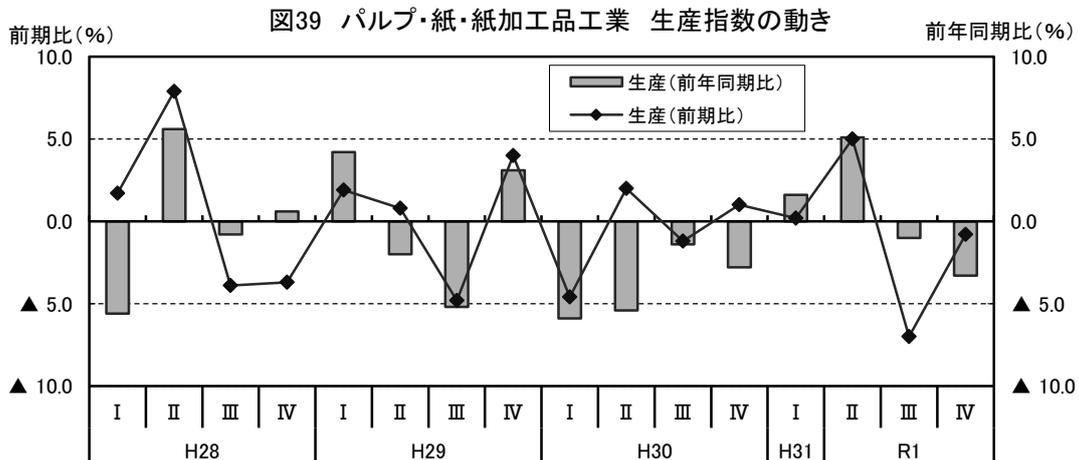
図38 パルプ・紙・紙加工品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 0.2%、Ⅱ期 5.0%と平成 30 年Ⅳ期以降 3 期連続で上昇したが、Ⅲ期▲7.0%、Ⅳ期▲0.8%と低下した。

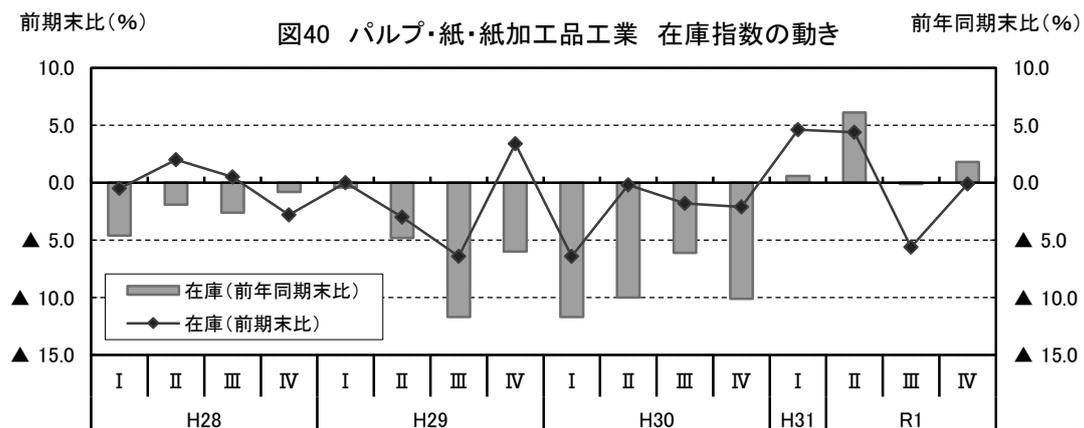
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 1.6%、Ⅱ期 5.1%と前年を上回ったが、Ⅲ期▲1.0%、Ⅳ期▲3.3%と前年を下回った（図 39、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 4.6%、Ⅱ期 4.4%と上昇したが、Ⅲ期▲5.6%、Ⅳ期▲0.1%と低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 0.6%、Ⅱ期 6.1%と前年を上回ったが、Ⅲ期▲0.1%と前年を下回り、Ⅳ期 1.8%と再び前年を上回った（図 40、統計表第 4 表）。



(11) 繊維工業

①概況

生産指数は前年比▲7.1%（寄与度▲0.12）で87.8となり、2年連続で低下した。これは5品目中、2品目（織物、染色整理）が増加したものの、3品目（化繊・紡績、衣類、その他繊維製品）が減少したことによる（表11、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比25.7%（寄与度0.55）の上昇で109.0となり、2年連続で上昇した。これは5品目中、5品目すべて（化繊・紡績、織物、染色整理、衣類、その他繊維製品）が増加したことによる（表11、統計表第9表）。

表11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
繊維工業	193.5	94.5	87.8	▲7.1	▲0.12	258.1	86.7	109.0	25.7	0.55
化繊・紡績	41.1	85.8	63.2	▲26.3	▲0.09	38.0	97.6	101.3	3.8	0.01
織物	31.5	101.6	103.7	2.1	0.01	76.6	65.3	87.4	33.8	0.16
染色整理	27.8	122.9	124.0	0.9	0.00	38.5	102.1	108.1	5.9	0.02
衣類	72.2	82.8	77.5	▲6.4	▲0.04	87.2	86.4	126.1	45.9	0.33
その他繊維製品	20.9	103.0	99.3	▲3.6	▲0.01	17.8	124.0	136.6	10.2	0.02

寄与度は鉱工業に対する数値

図41 繊維工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

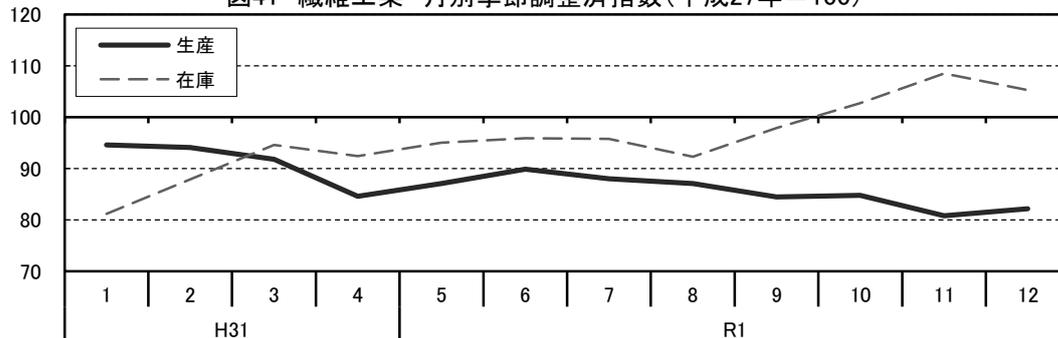
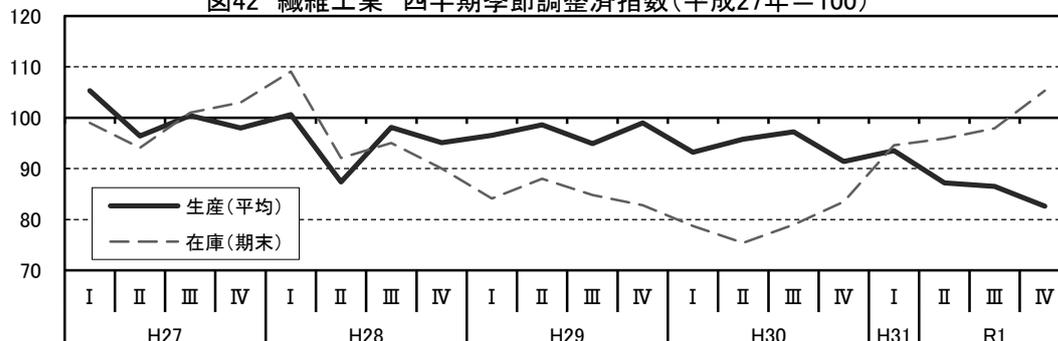


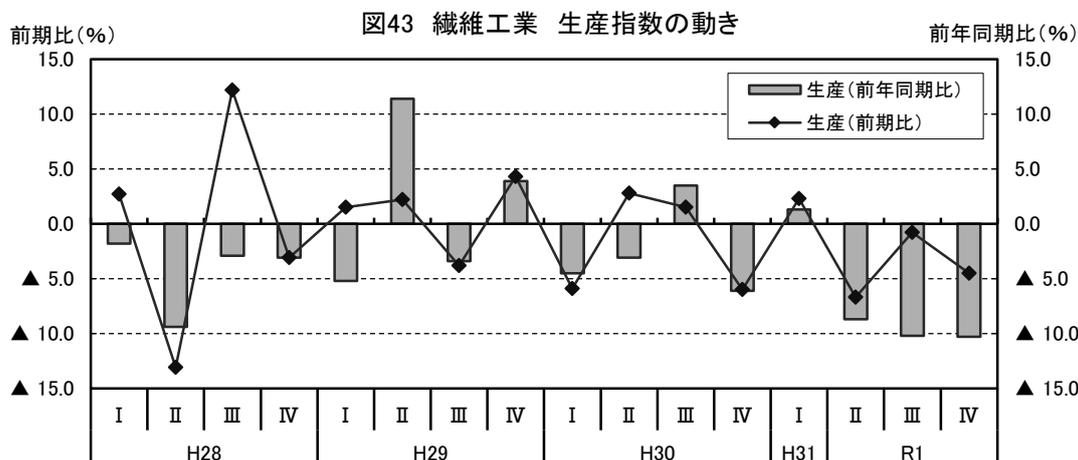
図42 繊維工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期2.3%と上昇したが、II期▲6.7%、III期▲0.8%、IV期▲4.5%と3期連続で低下した。

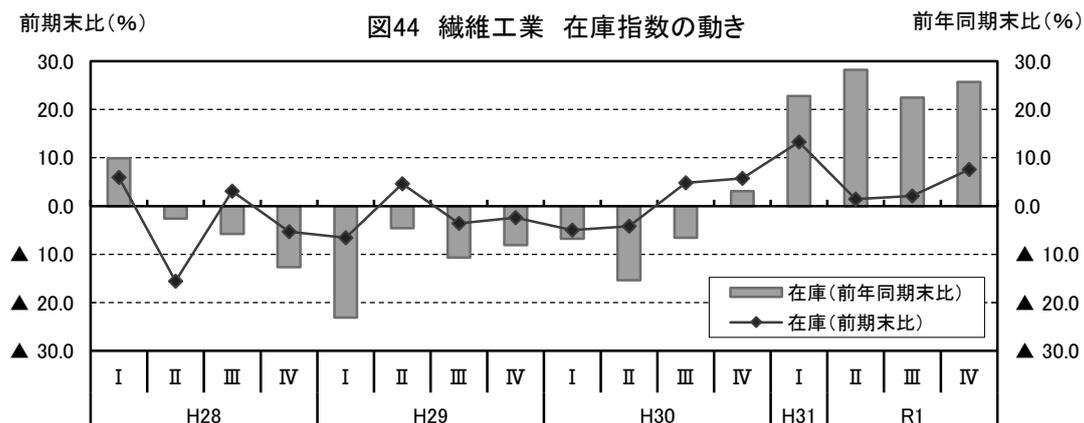
また、前年同期比(原指数)は、I期1.3%と前年を上回ったが、II期▲8.7%、III期▲10.2%、IV期▲10.3%と3期連続で前年を下回った(図43、統計表第3表)。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期13.3%、II期1.4%、III期2.1%、IV期7.6%と平成30年III期以降6期連続で上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、I期22.8%、II期28.2%、III期22.5%、IV期25.7%と平成30年IV期以降5期連続で前年を上回った。(図44、統計表第4表)。



(12) 食料品工業

①概況

生産指数は前年比▲3.3%（寄与度▲0.15）で89.3となり、5年連続で低下した。これは7品目中、1品目が増加したものの、6品目（畜産食料品、調味料、パン・菓子、その他の食料品、飲料など）が減少したことによる（表12、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲1.1%（寄与度▲0.05）で82.7となり、2年連続で低下した。これは7品目中、2品目（その他の食料品など）が増加したものの、5品目（畜産食料品、調味料、精穀・製粉、飲料など）が減少したことによる（表12、統計表第9表）。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
食料品工業	531.7	92.3	89.3	▲3.3	▲0.15	603.8	83.6	82.7	▲1.1	▲0.05
畜産食料品	120.0	82.0	78.0	▲4.9	▲0.05	86.5	87.8	80.0	▲8.9	▲0.06
水産食料品	23.5	X	X	X	X	30.4	X	X	X	X
調味料	23.0	89.8	87.8	▲2.2	▲0.00	84.4	73.9	73.6	▲0.4	▲0.00
精穀・製粉	1.3	X	X	X	X	2.9	111.0	99.6	▲10.3	▲0.00
パン・菓子	42.9	83.2	X	▲18.5	▲0.06	9.1	X	X	X	X
その他の食料品	215.9	101.2	99.0	▲2.2	▲0.05	94.3	83.4	113.0	35.5	0.27
飲料	105.1	87.3	87.1	▲0.2	▲0.00	296.2	91.7	82.7	▲9.8	▲0.26

平成27年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図45 食料品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

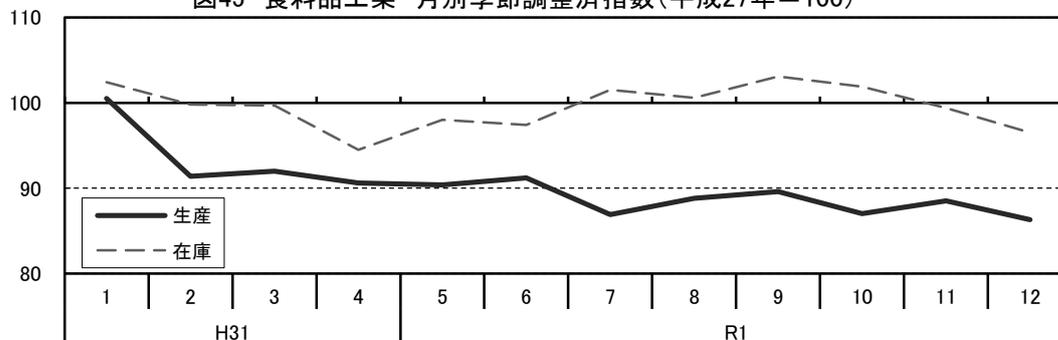
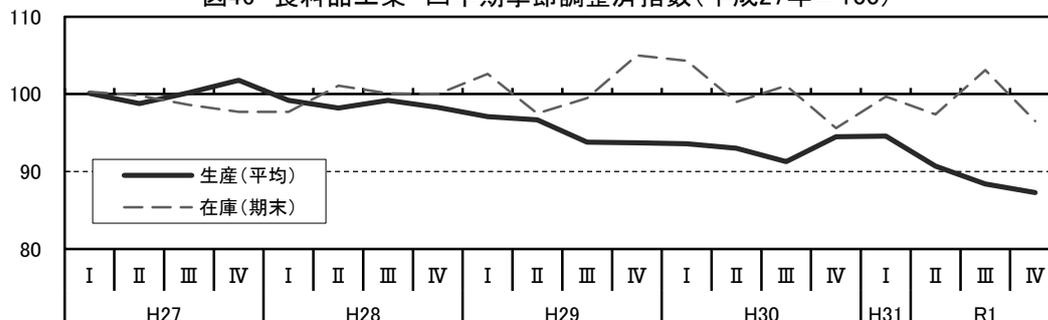


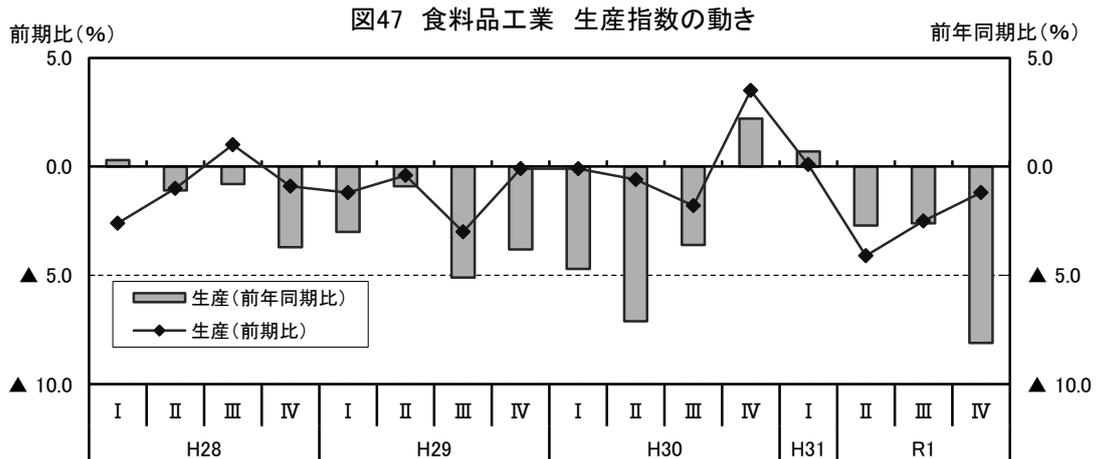
図46 食料品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、I期0.1%と平成30年IV期に続き上昇したが、II期▲4.1%、III期▲2.5%、IV期▲1.2%と3期連続で低下した。

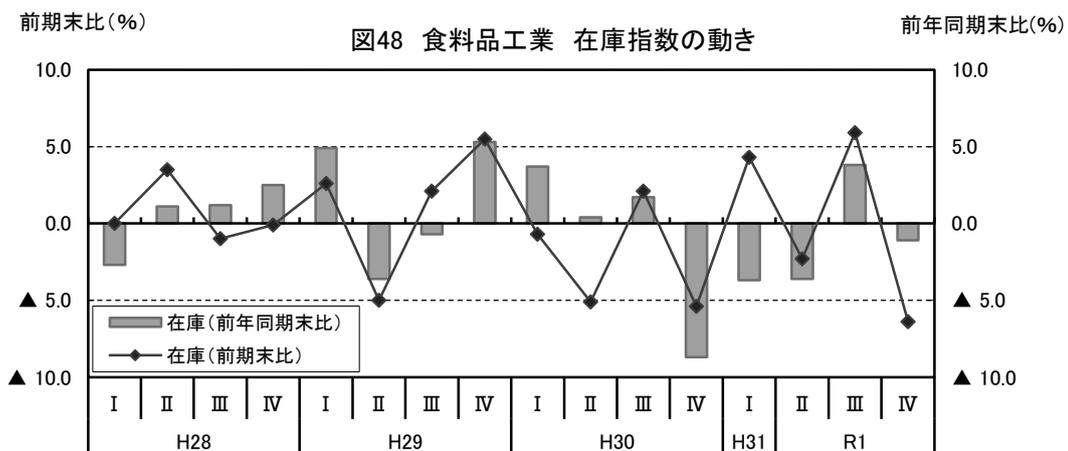
また、前年同期比（原指数）は、I期0.7%と平成30年IV期に続き前年を上回ったが、II期▲2.7%、III期▲2.6%、IV期▲8.1%と3期連続で前年を下回った（図47、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、I期4.3%と上昇し、II期▲2.3%と低下したが、III期5.9%と上昇し、IV期▲6.4%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、I期▲3.7%、II期▲3.6%と平成30年IV期以降3期連続で前年を下回ったが、III期3.8%と前年を上回り、IV期▲1.1%と再び前年を下回った（図48、統計表第4表）。



(13) その他工業

①概況

生産指数は前年比▲2.6%（寄与度▲0.12）で91.7となり、4年連続で低下した。これは4品目中、1品目（木材・木製品工業）が増加したものの、3品目（印刷業など）が減少したことによる（表13、統計表第7表）。

表13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成30年	令和元年				平成30年	令和元年		
その他工業	544.0	94.1	91.7	▲2.6	▲0.12	271.6	X	X	X	X
ゴム製品工業	44.7	X	X	X	X	27.5	X	X	X	X
印刷業	104.4	91.1	88.5	▲2.9	▲0.03	28.8	X	X	X	X
木材・木製品工業	107.2	100.0	100.8	0.8	0.01	-	-	-	-	-
その他製品工業	287.7	X	X	X	X	215.3	X	X	X	X

平成27年=100
寄与度は鉱工業に対する数値

図49 その他工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

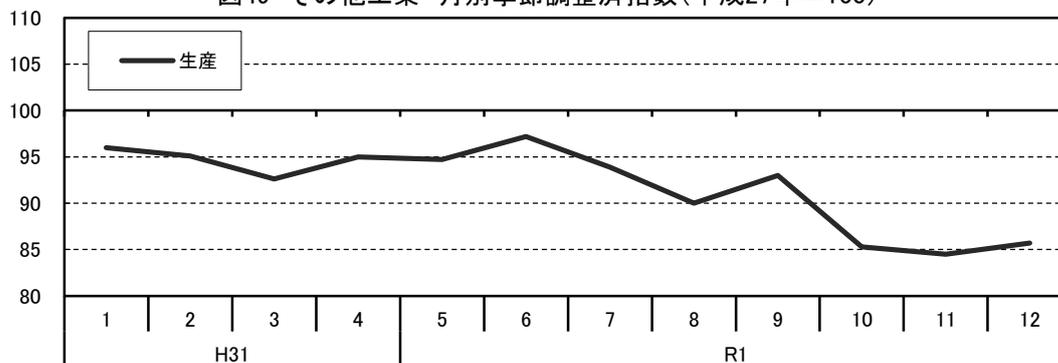
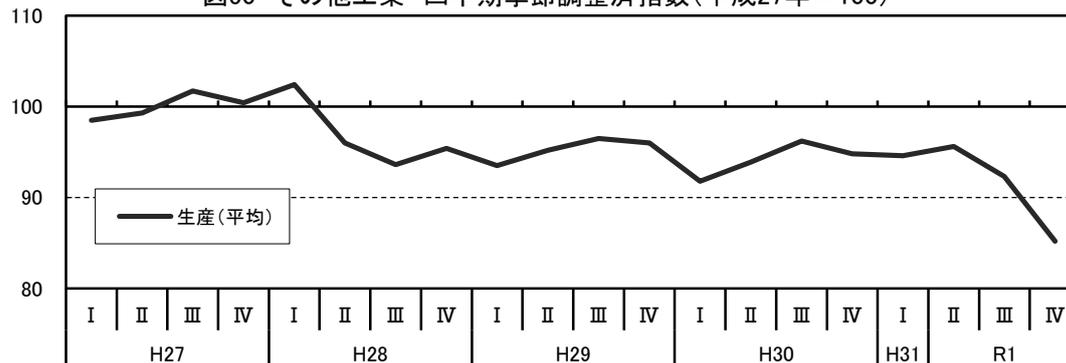


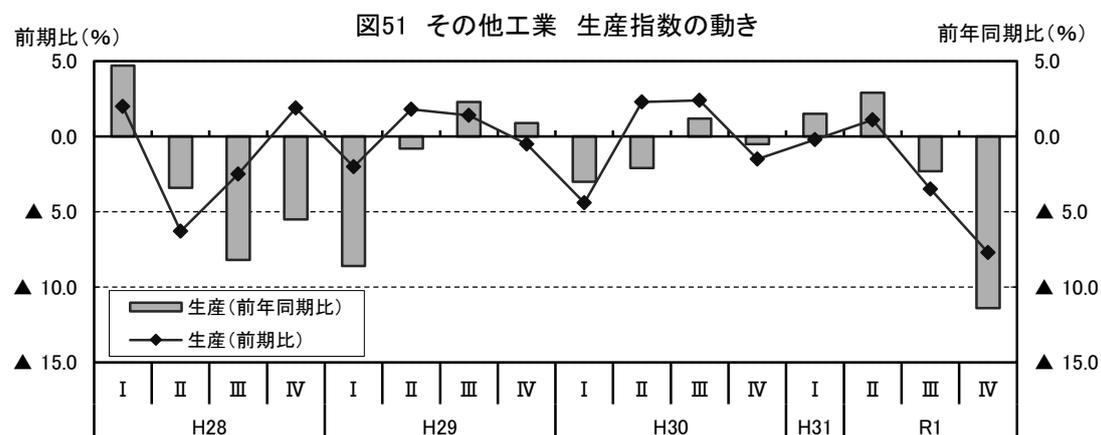
図50 その他工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.2%と平成30年Ⅳ期に続き低下したが、Ⅱ期1.1%と上昇し、Ⅲ期▲3.5%、Ⅳ期▲7.7%と再び低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期1.5%、Ⅱ期2.9%と前年を上回ったが、Ⅲ期▲2.3%、Ⅳ期▲11.4%と前年を下回った（図51、統計表第3表）。



③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は平成29年Ⅳ期以降6期連続で上昇し、Ⅱ期、Ⅲ期は低下し、Ⅳ期は再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、平成30年Ⅰ期以降8期連続で前年を上回った。

※指数値は秘匿のため公表しません。

3 財用途別動向

注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15～16「業種別・財別品目一覧」を参照。

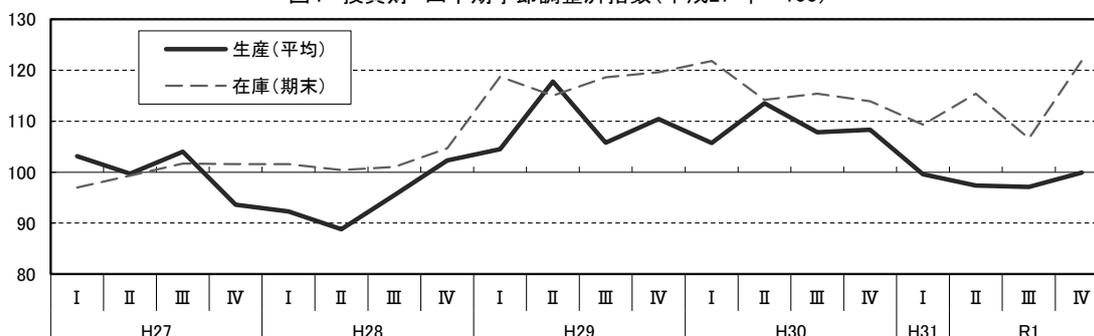
(1) 最終需要財

生産は前年比(原指数) ▲1.9%で 100.9 となり、在庫は前年末比 1.9%の上昇で 95.0 となった(統計表第 11 表・第 13 表)。

①投資財

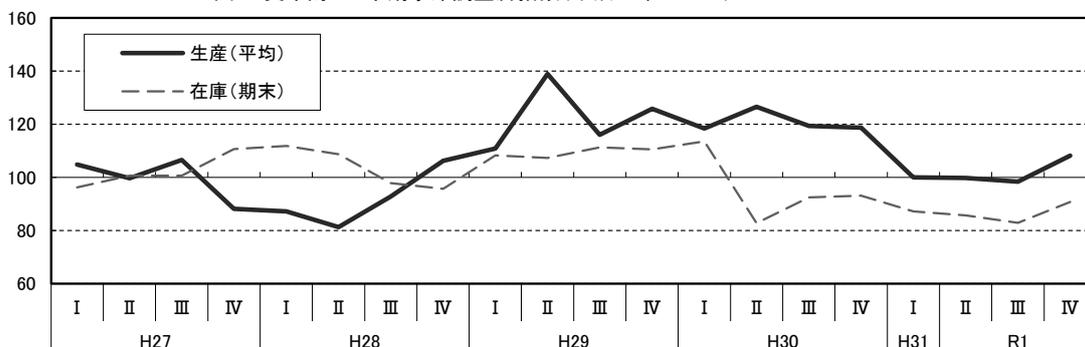
投資財全体では、生産が前年比(原指数) ▲9.8%で 98.1 となり、在庫が前年末比 9.4%の上昇で 118.3 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期▲8.0%、II 期▲2.2%、III 期▲0.3%と 3 期連続で低下したが、IV 期 2.9%と上昇した(図 1、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

図1 投資財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

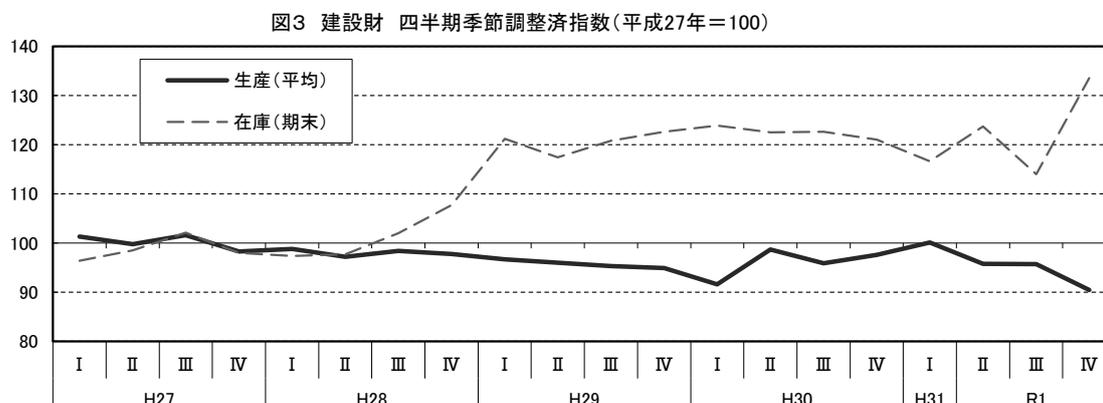


投資財のうち**資本財**は、生産が前年比(原指数) ▲16.4%で 101.2 となり、在庫が前年末比▲0.6%で 95.9 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期▲15.8%、II 期▲0.2%、III 期▲1.4%と平成 30 年III 期以降 5 期連続で低下したが、IV 期 9.9%と上昇した(図 2、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

図2 資本財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

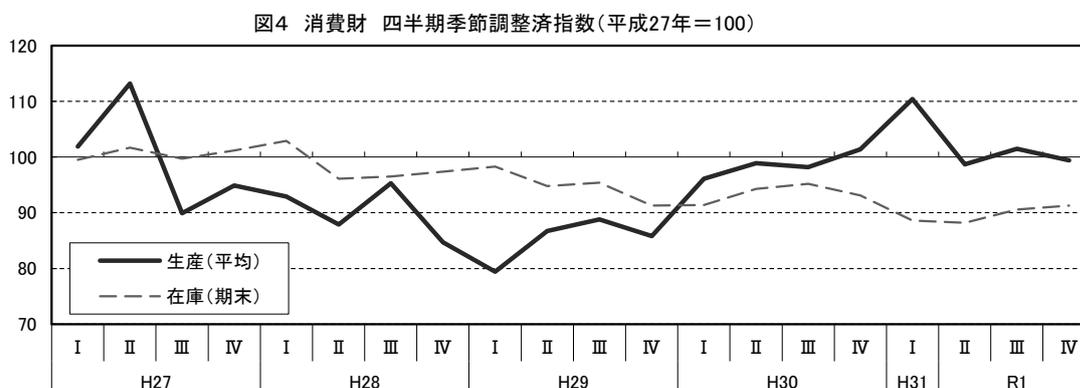


また、**建設財**は、生産が前年比（原指数）▲0.6%で94.9となり、在庫が前年末比12.2%の上昇で125.4となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期2.6%と平成30年IV期に続き上昇したが、II期▲4.3%、III期▲0.1%、IV期▲5.4%と3期連続で低下した（図3、統計表第2表・第5表・第6表）。



②消費財

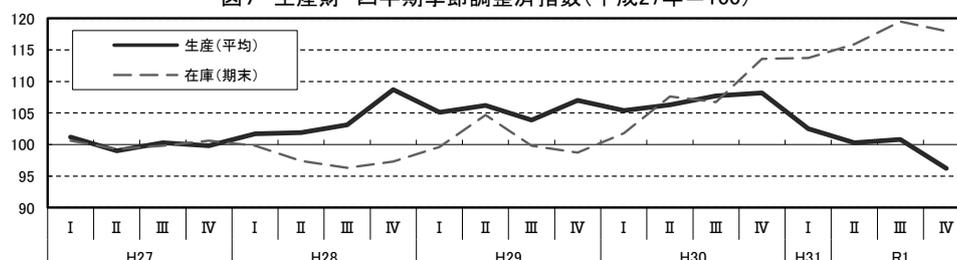
消費財全体では、生産が前年比（原指数）3.6%の上昇で102.7となり、在庫が前年末比▲0.9%で87.8となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期8.9%と平成30年IV期に続き上昇し、II期▲10.6%と低下したが、III期2.8%と上昇し、IV期▲2.1%と再び低下した（図4、統計表第2表・第5表・第6表）。



(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比(原指数) ▲6.4%で 100.0 となり、在庫が前年末比 3.8%の上昇で 114.2 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I期 ▲5.3%、II期 ▲2.1%と低下し、III期 0.5%と上昇したが、IV期 ▲4.6%と再び低下した(図7、統計表第2表・第5表・第6表)。

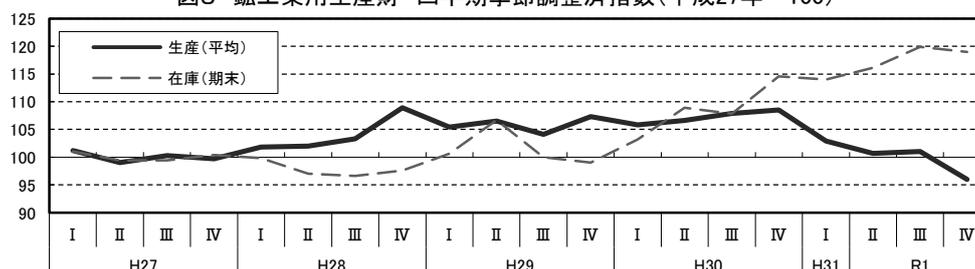
図7 生産財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



① 鉱工業用生産財

生産財のうち**鉱工業用生産財**は、生産が前年比(原指数) ▲6.4%で 100.2 となり、在庫が前年末比 4.3%の上昇で 114.8 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I期 ▲5.2%、II期 ▲2.1%と低下し、III期 0.3%と上昇したが、IV期 ▲5.0%と再び低下した(図8、統計表第2表・第5表・第6表)。

図8 鉱工業用生産財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



② その他用生産財

また、**その他用生産財**は、生産が前年比(原指数) ▲4.4%で 95.3 となり、在庫が前年末比 ▲4.4%で 103.4 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I期 ▲8.6%と低下し、II期 1.9%、III期 1.4%と上昇したが、IV期 ▲5.7%と再び低下した(図9、統計表第2表・第5表・第6表)。

図9 その他用生産財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

